

本編クライマックスシーンにて
多少の流血描写がございますので
苦手な方はご注意くださいませ



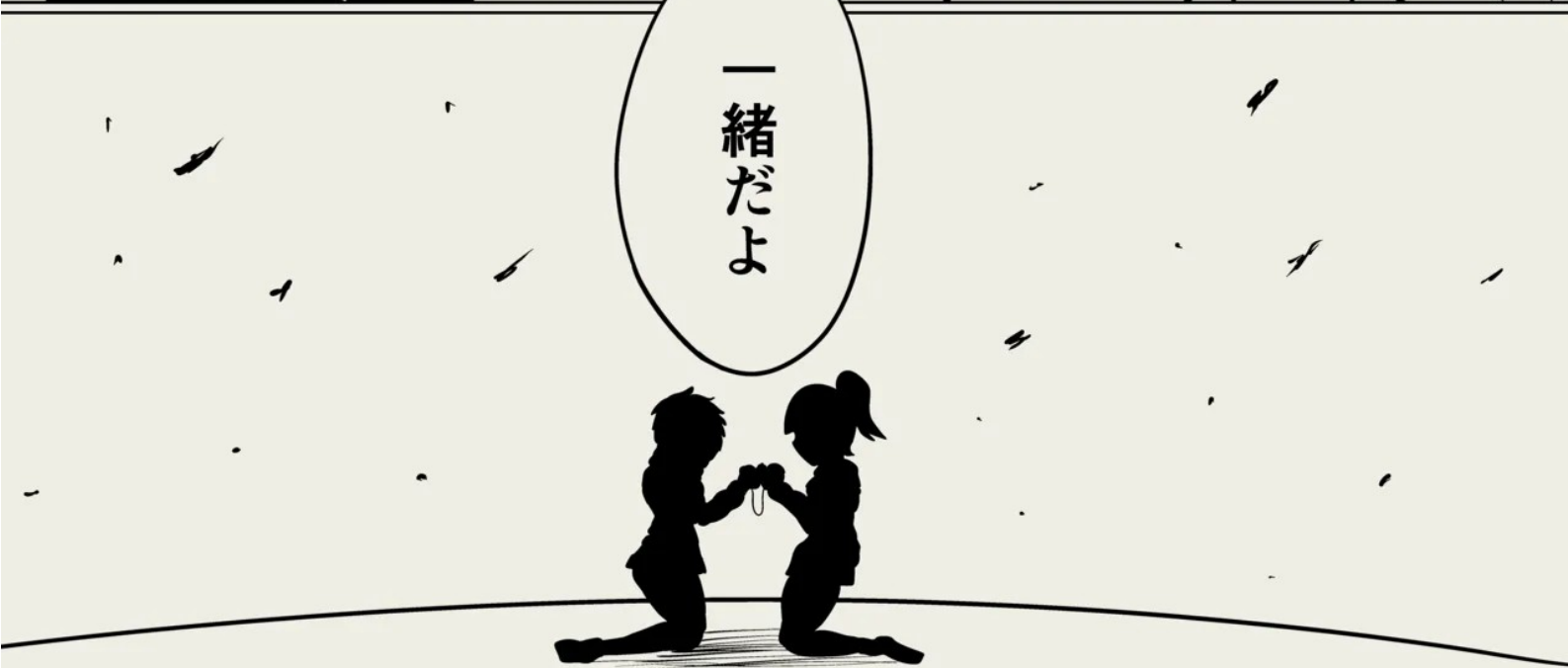
天人さまとの
お約束ッ

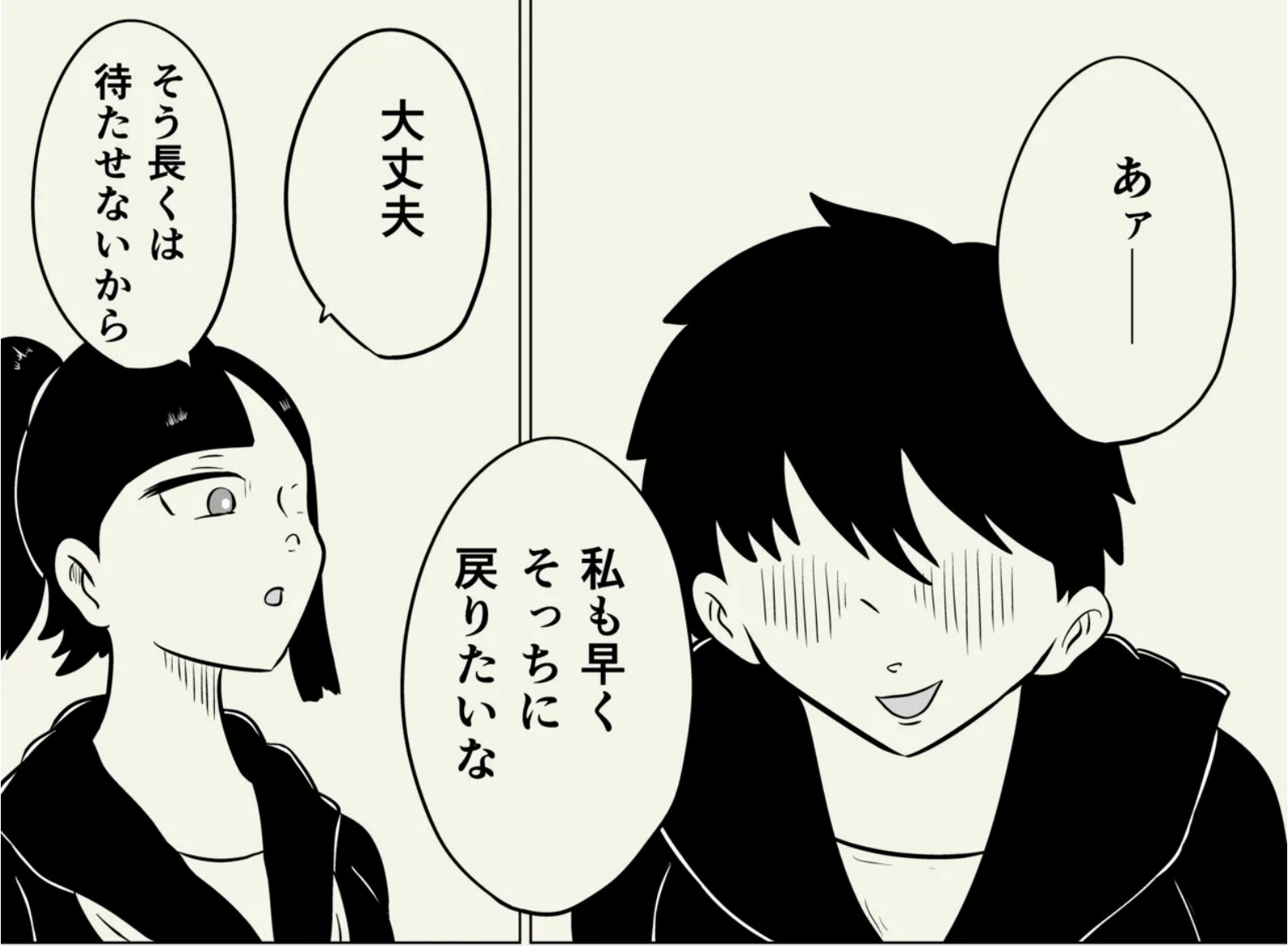
ずっと
一緒のお約束ッ

血も肉も
心もぜんぶ——

二人で
一緒に——

——分かち合う





あア——

大丈夫

そう長くは
待たせないから

私も早く
そっちに
戻りたいな



でも

今はダメ

今は——
足りない

友情が：
暖かい魂が――

全然足りない

スマレ：
あなたに捧げるには

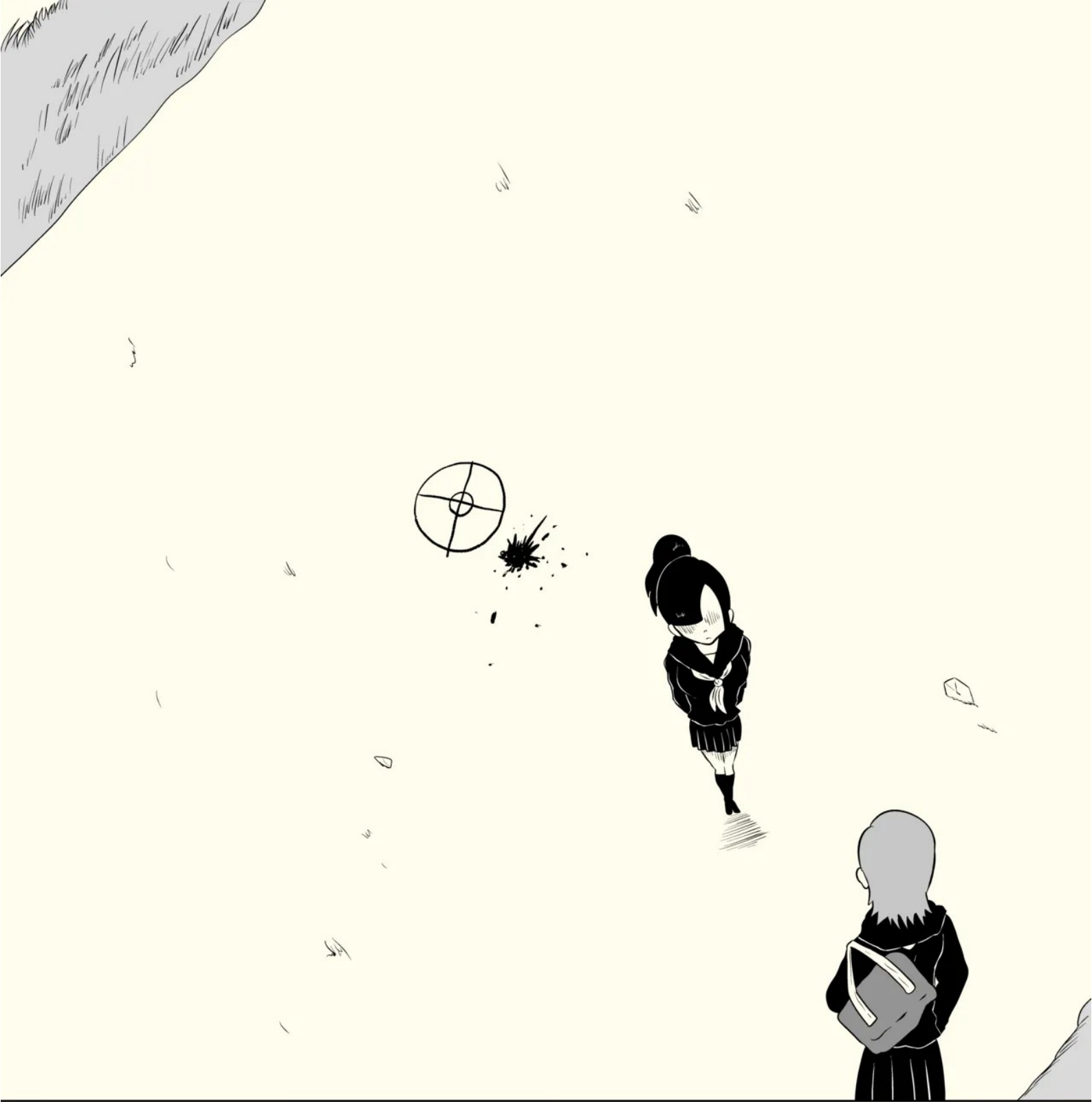
少なすぎる

でも
絶対に

私の――

――唯一の理解者
なんだから

スマレを
こっちに戻して
あげるから



日野スミレ――

昭和のかの大事事件の
犯人として知られる

日野スミレは
事件後に死亡…
とされている

その後は――

出身中学で
目撃情報が
相次ぐ

目撃者に
友人になろう
と声を掛ける

スミレと
仲良くなった者は

数日後に
窒息死で見つかった

死亡した生徒達は
いずれも――

それは
恐ろしい――

スマイレとの間に
とある儀式を
交わしていた

おまじない
だった

スマイレと友人に
なってしまった者と――

――親しい者の
魂たちを――

――出来るだけ多く
スマイレに捧げる

そのまじないが
成されれば――

儀式は完了
多くの
魂と引き換えに――

殺人鬼スマイレは
自由を得る

これまでに
何名かの生徒が――

――その儀式を
試みたが――

――全て失敗に
終わり――

儀式を試みた生徒は
後日、
窒息死体で見つかった

成功者が出る前に
手を打つ必要が
あるな――

しかし、もし――
超常的――力を持つ者が
儀式を試みたら――

先生！

青風先生！

あア――

それまでに
儀式を試みる者が
現れんことを祈ろう

入ってくれて
構わないよ



スミレ

—くすぐり獵奇事件—

最終話





助けてッ
瑠花 あああ



威勢だけの
臆病なヤツだ



あんたらのために



死んでたまるか
って話なの……!



呪ってやる



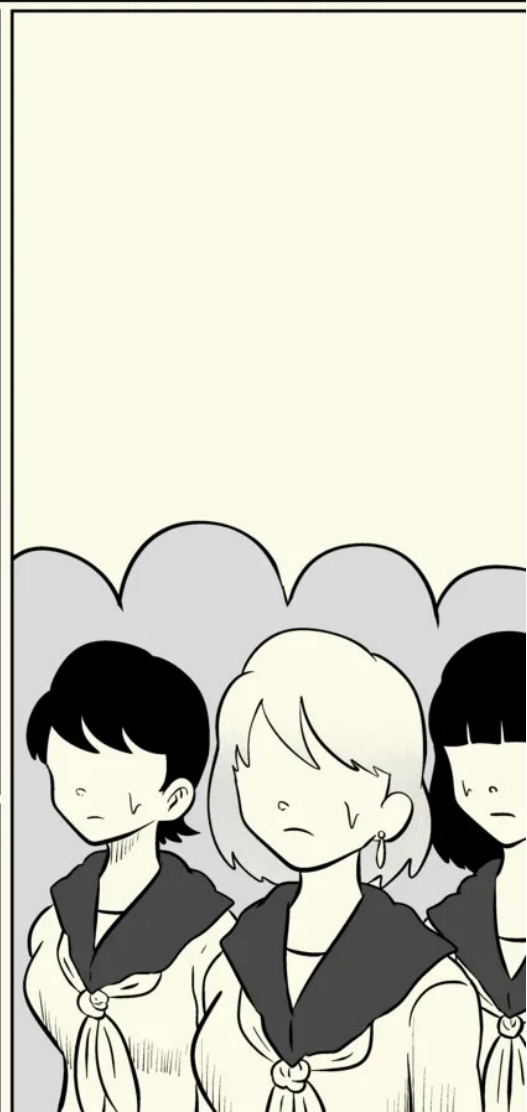
死体が四つも
出来ちゃったけど

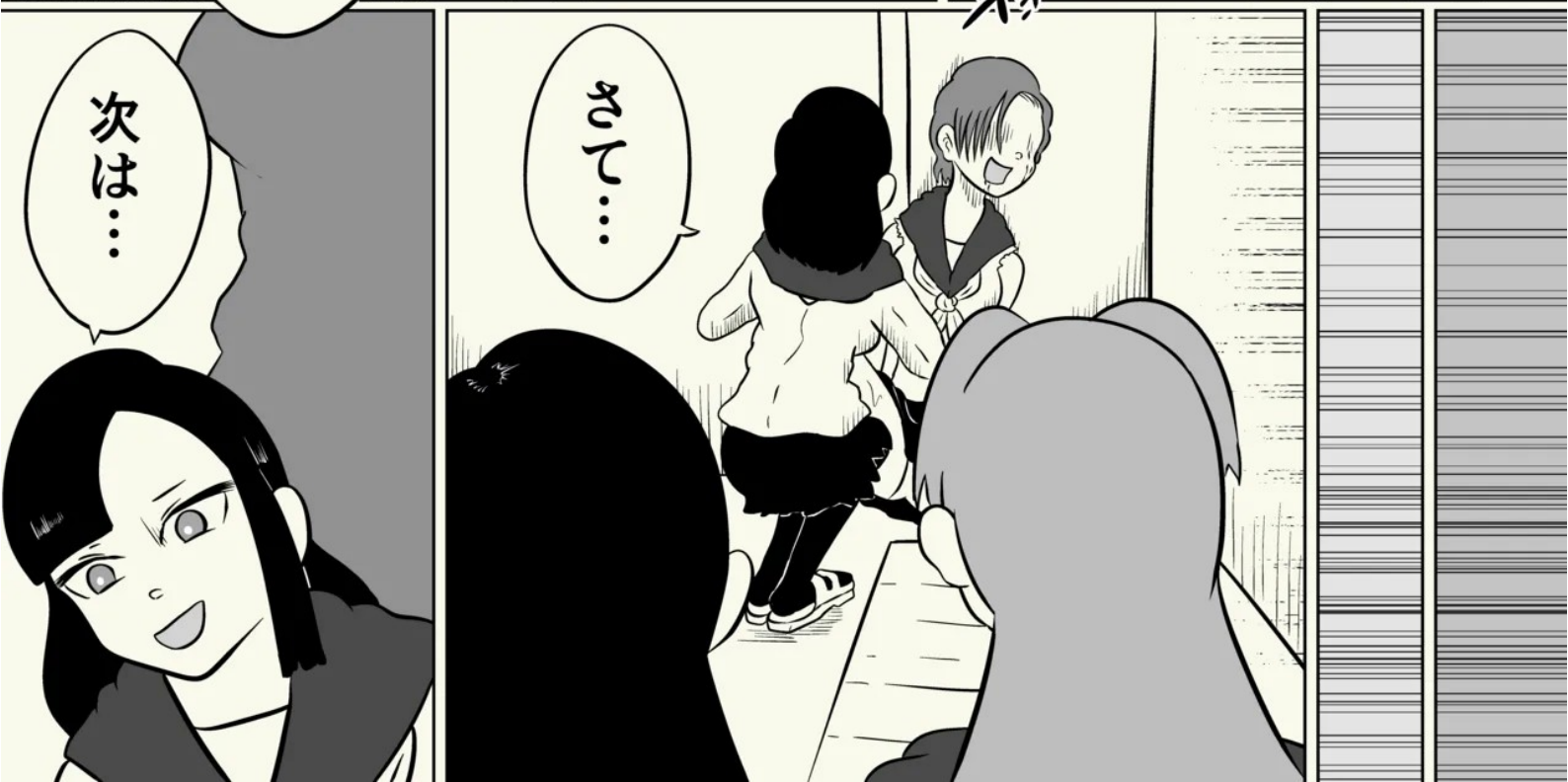
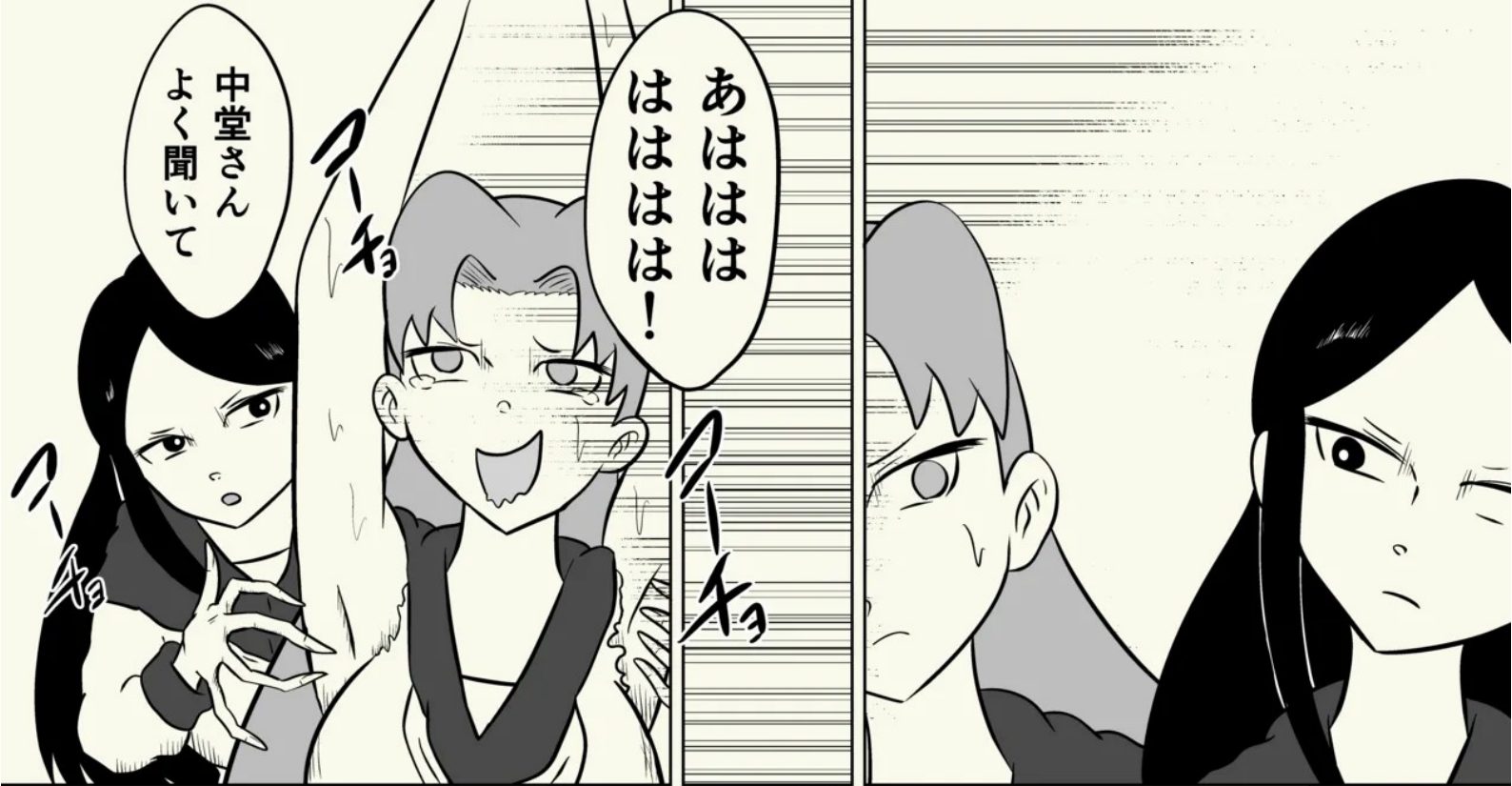


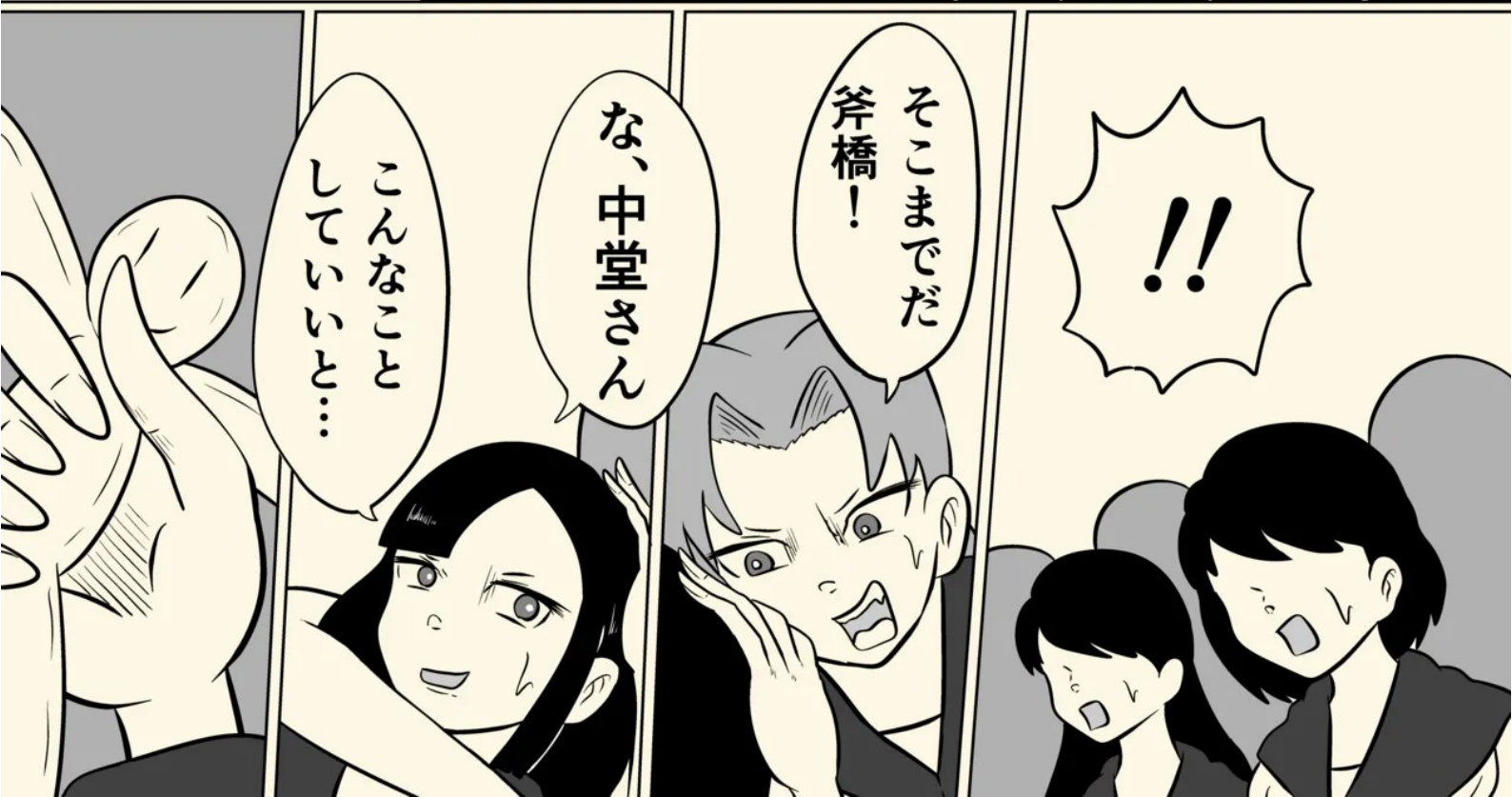
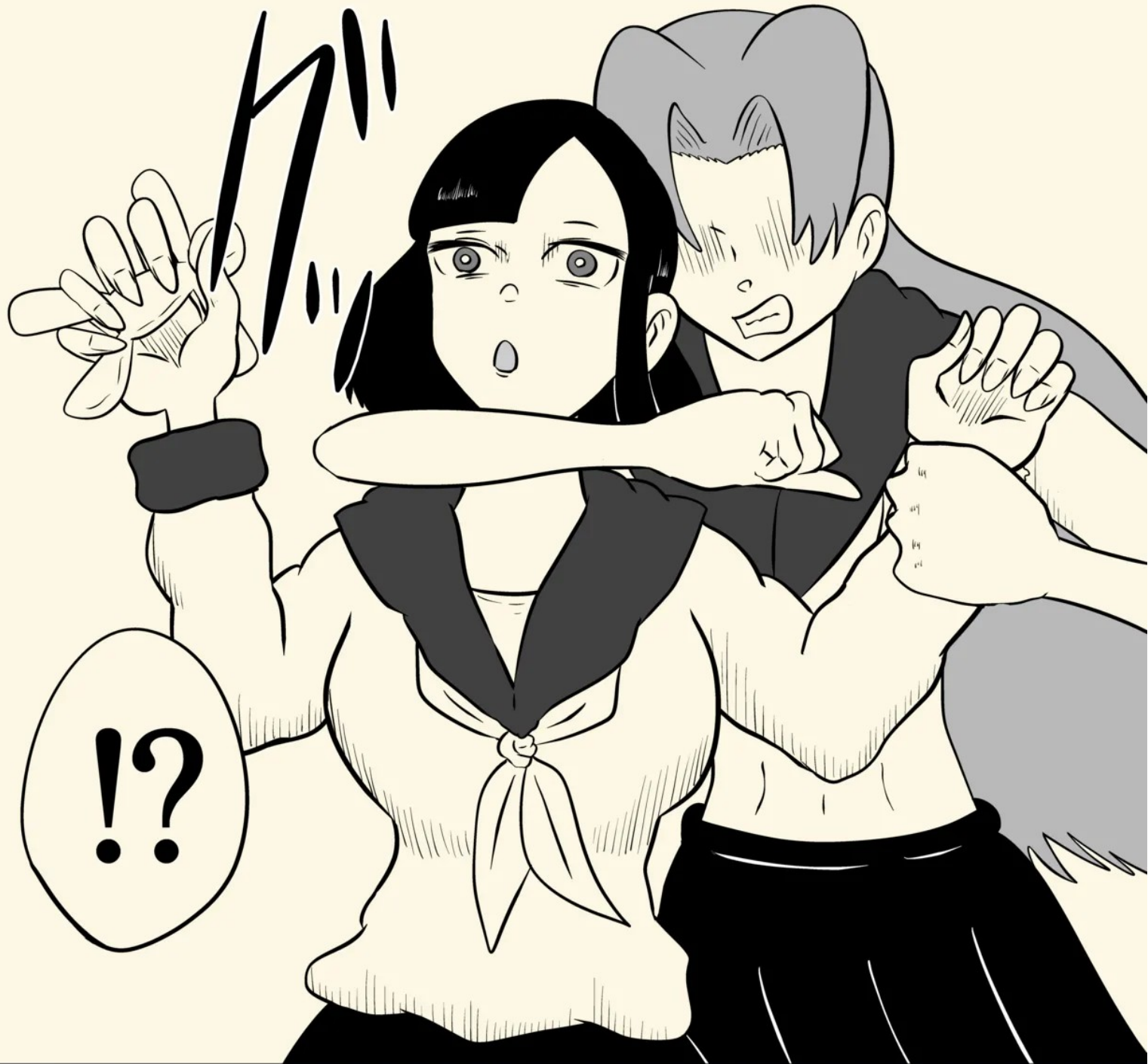
その代わりに
うん……

みんなの
結束力は

少しだけ
強まったんじゃない？









私たちは心の隙間を
突かれて…

こんな惨劇を
起こされた…

確かに
私たちは

仲良くなかった
けど

仲悪くも
なかったよね

じゃあさ—

この殺人鬼を
止めるために—

今だけでいいから—

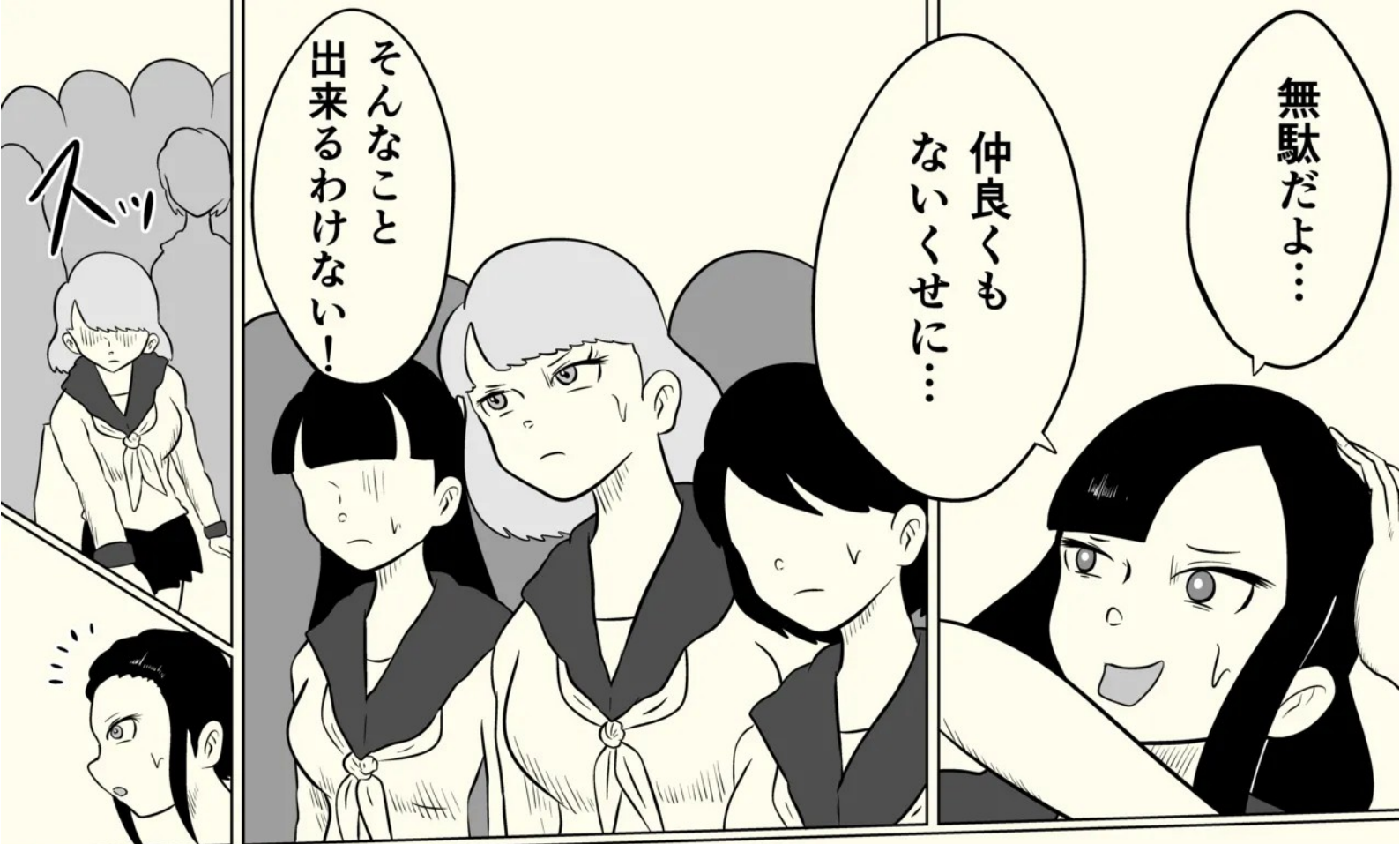
ちよつと**団結**
してみない!?

無駄だよ…

仲良くも
ないくせに…

そんなこと
出来るわけない！

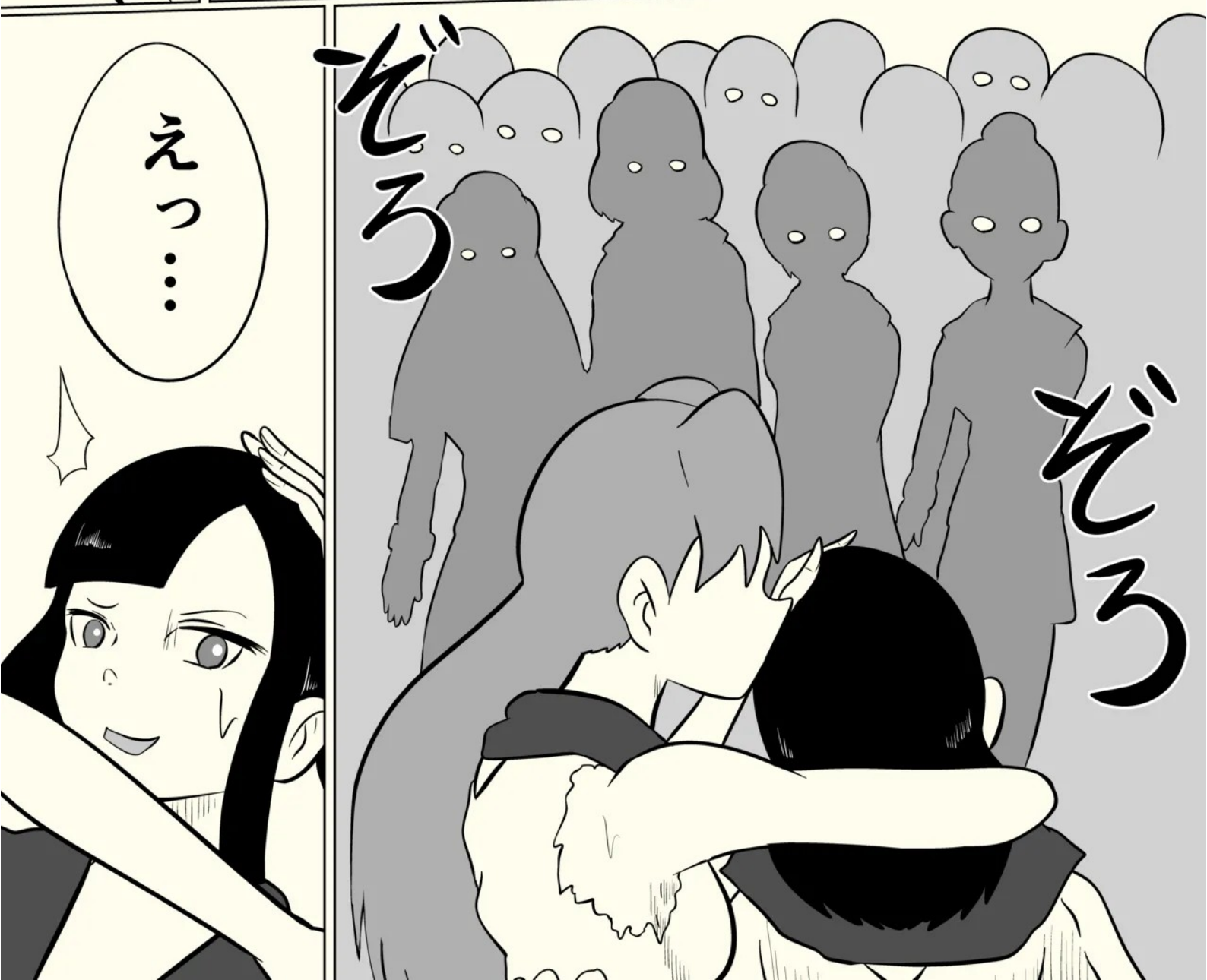
トッ

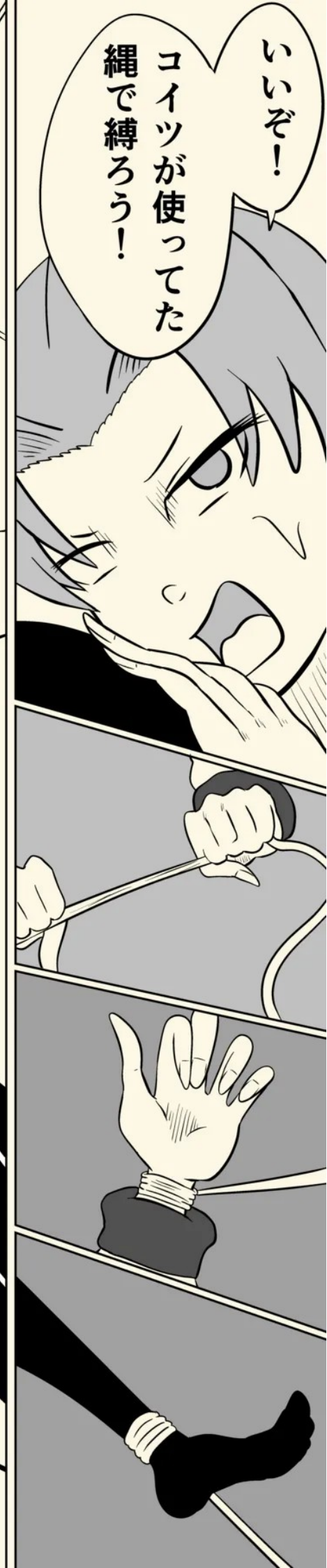


えっ…

ぞろ

ぞろ





それで…

こっから
どうする？

とにかく
気絶させないと

このままだと
危険だから

気絶？

首でも
絞めるか？

くすぐり地獄の刑

ううん
やるのはね

本気？

くすぐりで
わたしを？

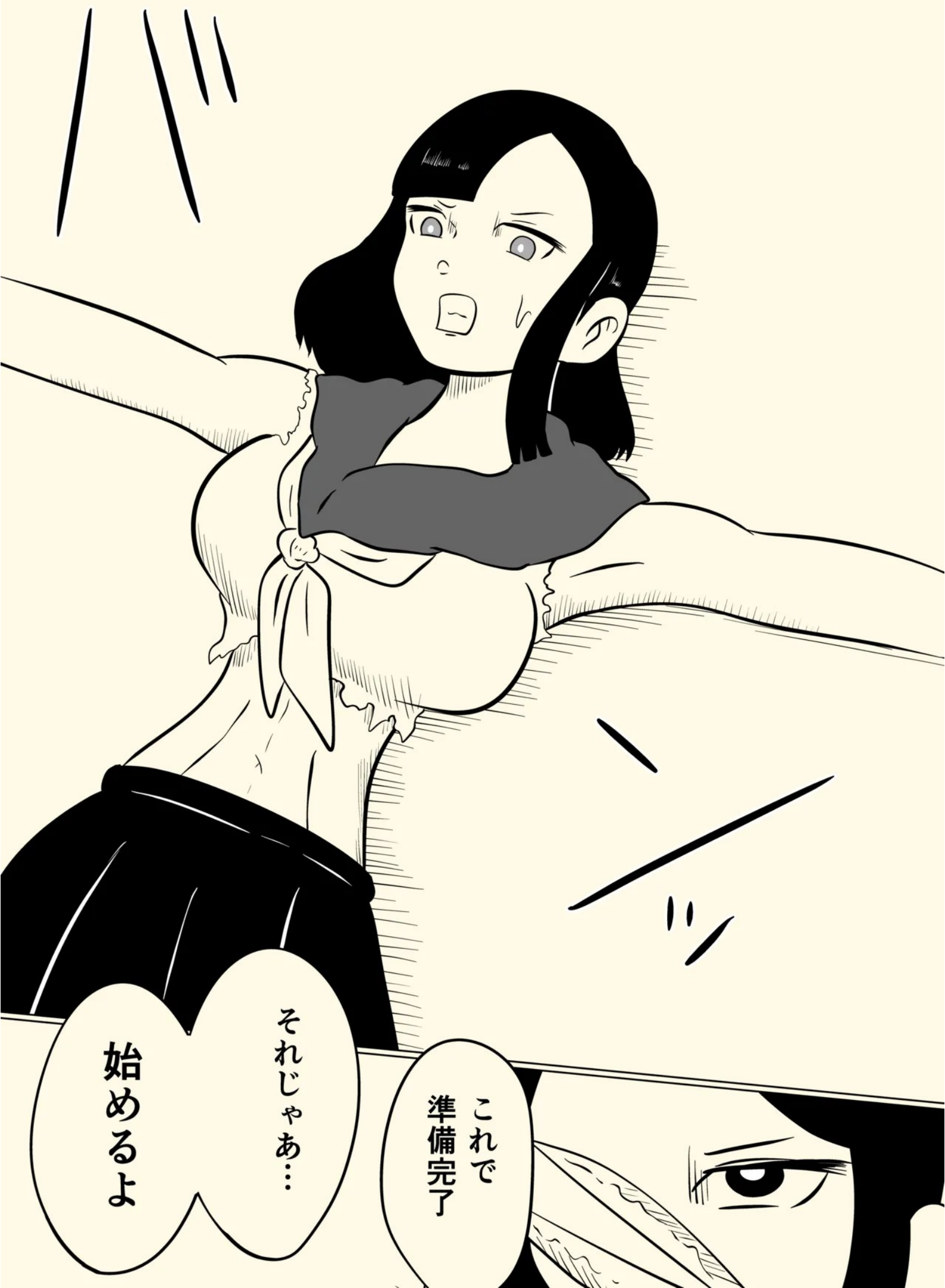
斧橋さん

私ね…

くすぐるのがさ
性的に大好きなんだよね

コレまで何度…
彼氏をくすぐり倒してきたか…





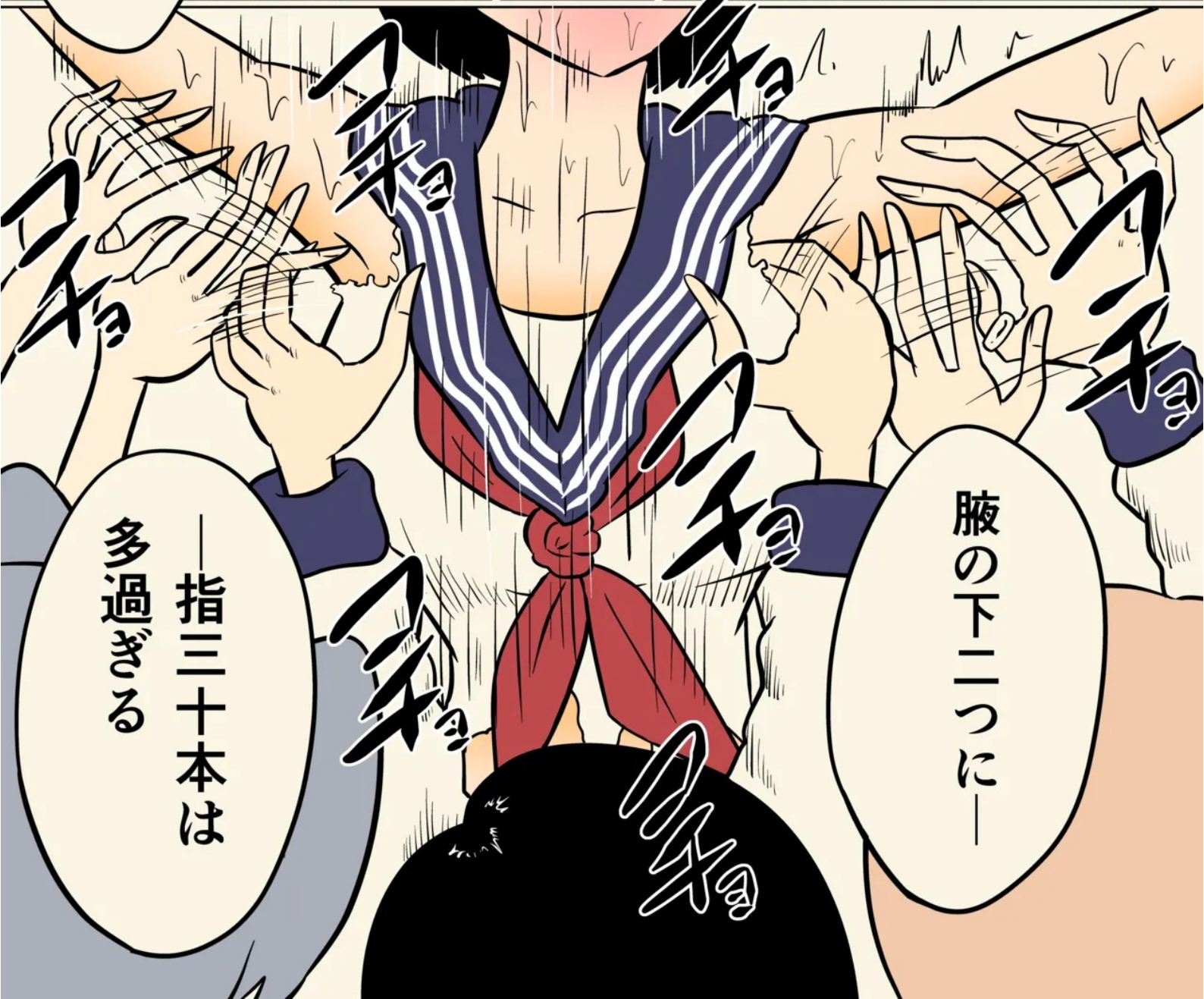
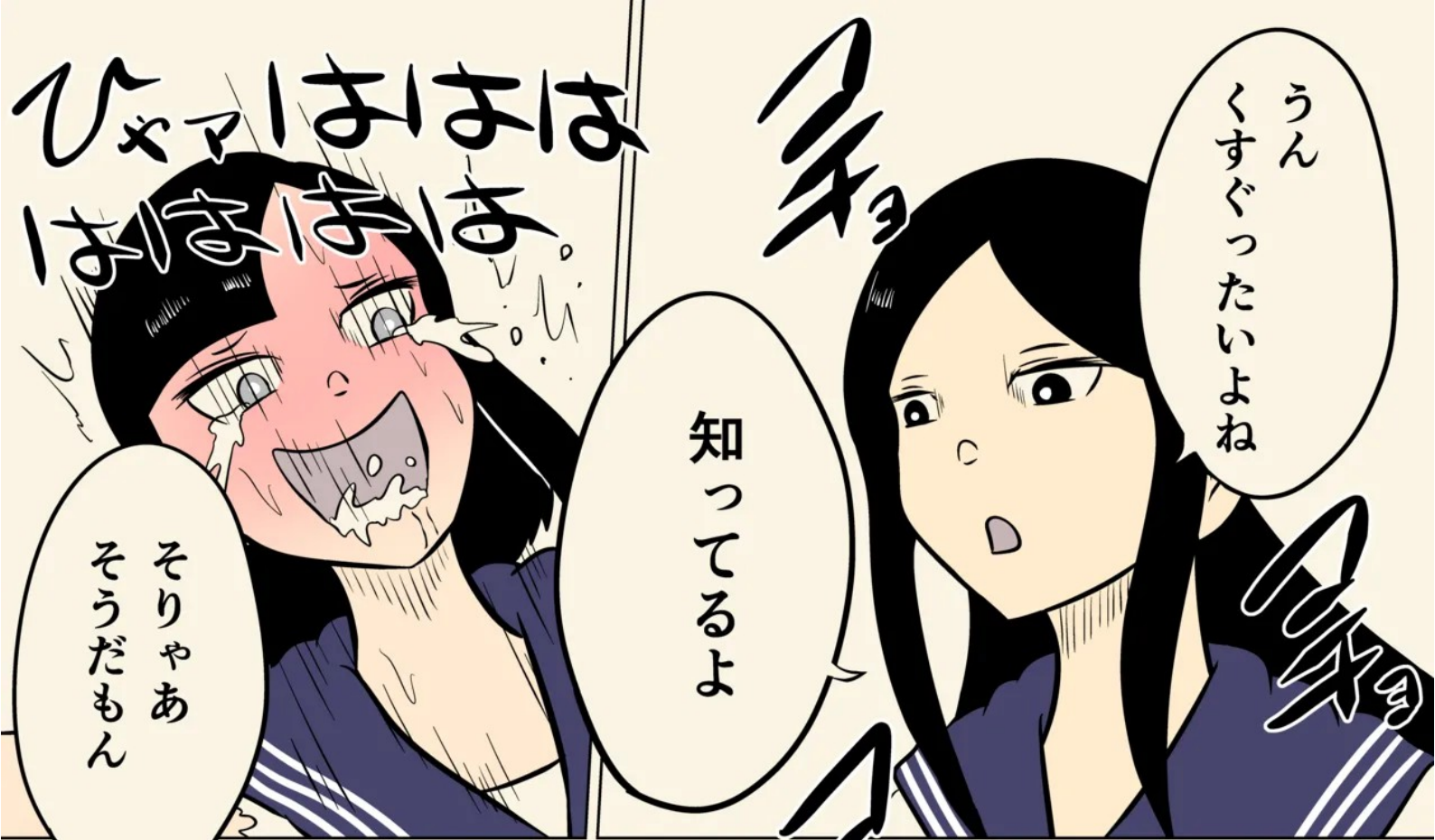
始めるよ

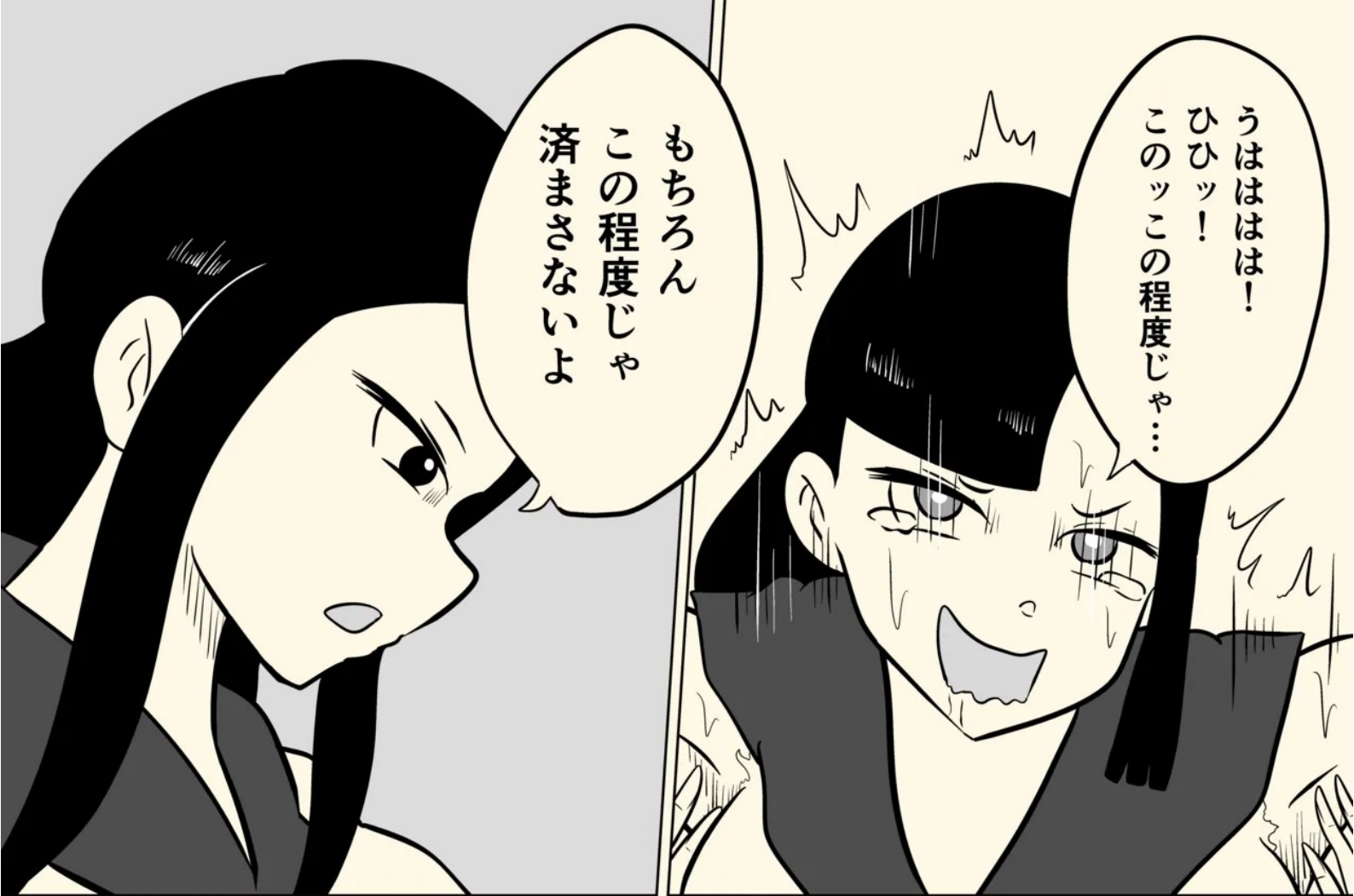
それじゃあ…

これで
準備完了



[illegible]



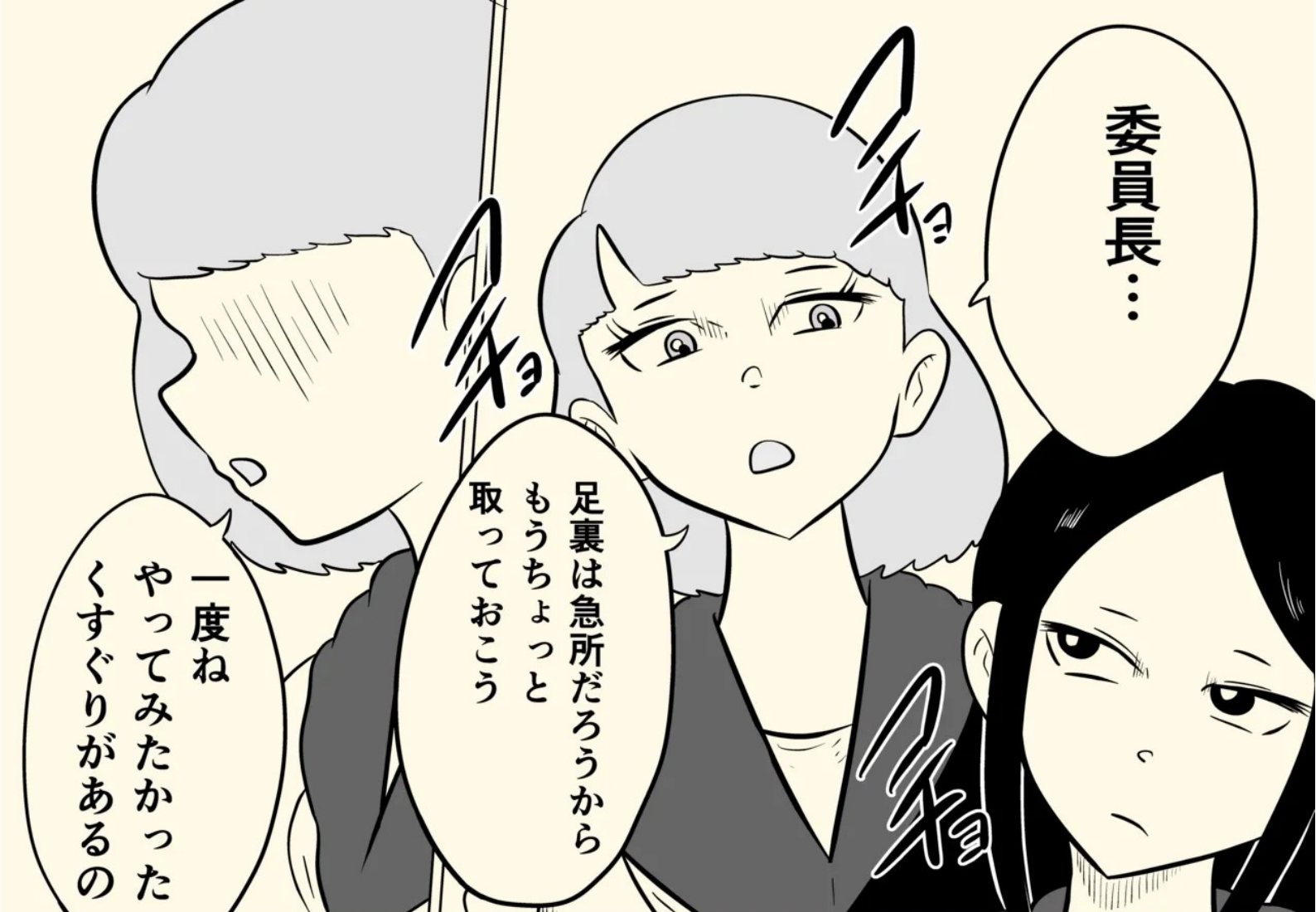


うはははは！
ひひッ！
このッこの程度じゃ…

もちろん
この程度じゃ
済まさないよ

例えばそう…
三人で寄ってたかって

足の裏コチヨコチヨの刑も
いい



委員長…

足裏は急所だろうから
もうちょっと
取っておこう

一度ね
やってみたかった
くすぐりがあるの



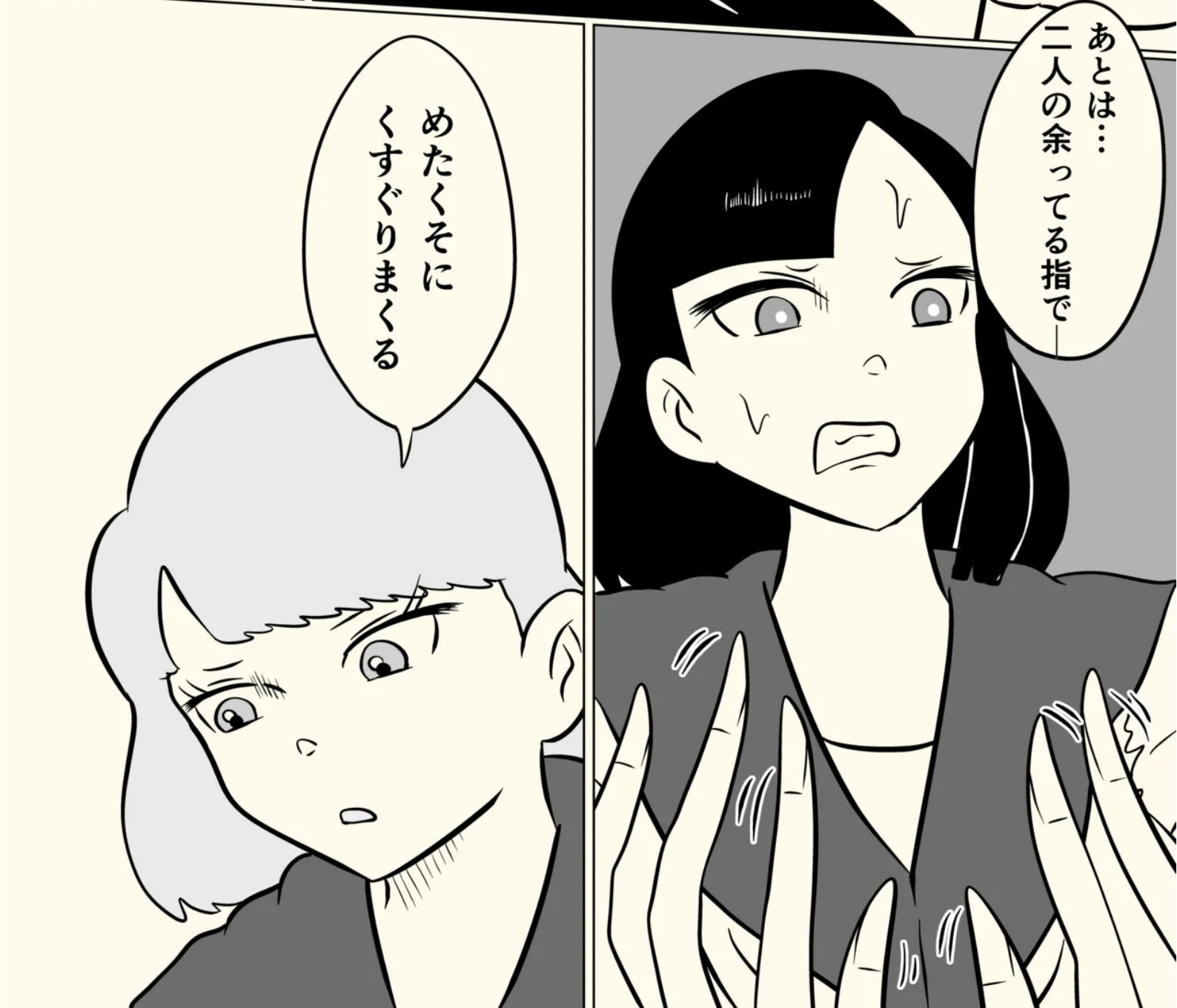
お腹と脇腹を
同時に――

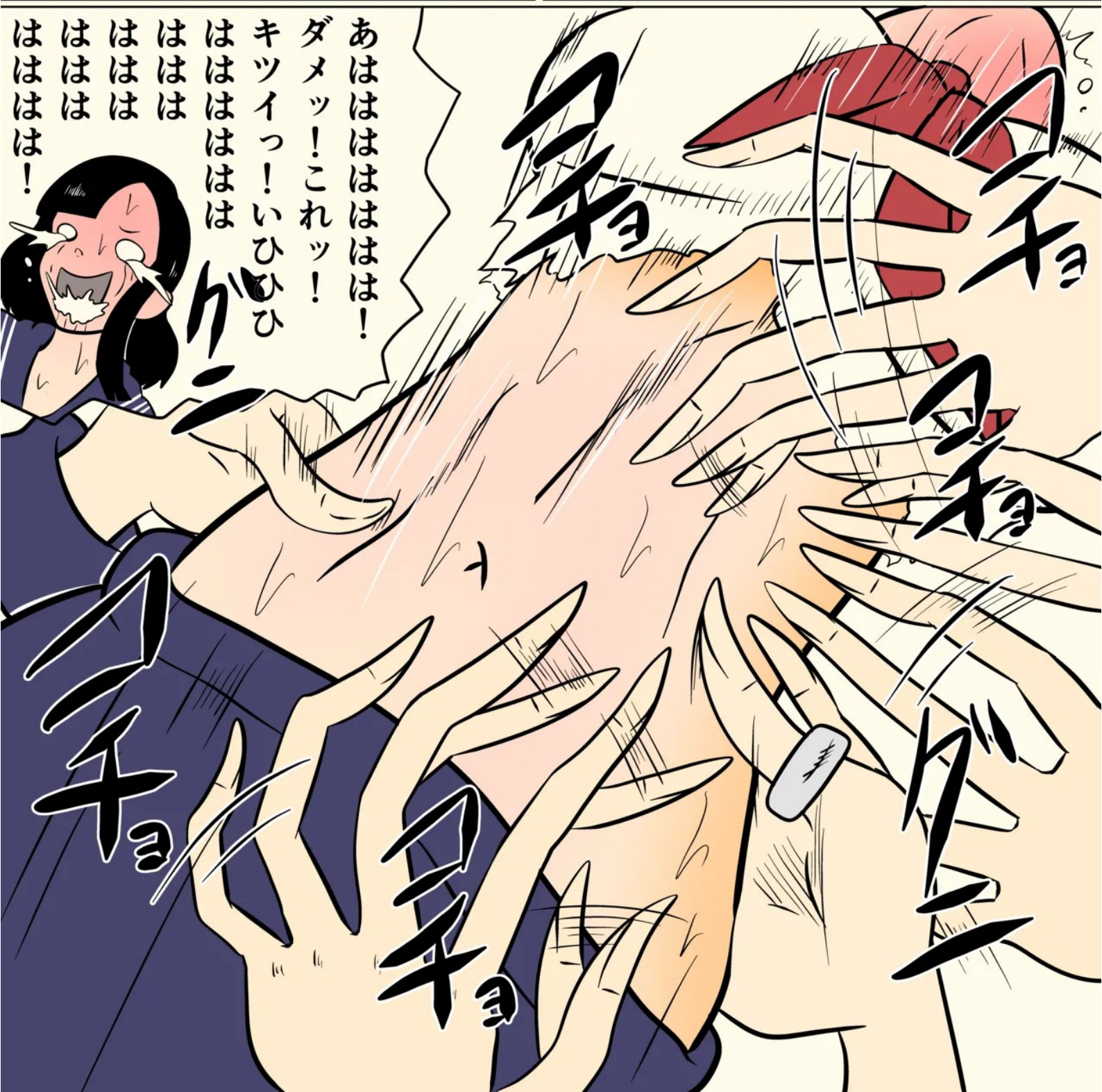
――揉んでくすぐる…



腹部絞めって
くすぐりなんだけど

な、なにそれ…





かなりの
効き目だな

じゃあそろそろ
逃走防止も兼ねて…

そのデカめの
足裏やっとか

ひえッ？

手指を
ヌルヌル
にして…





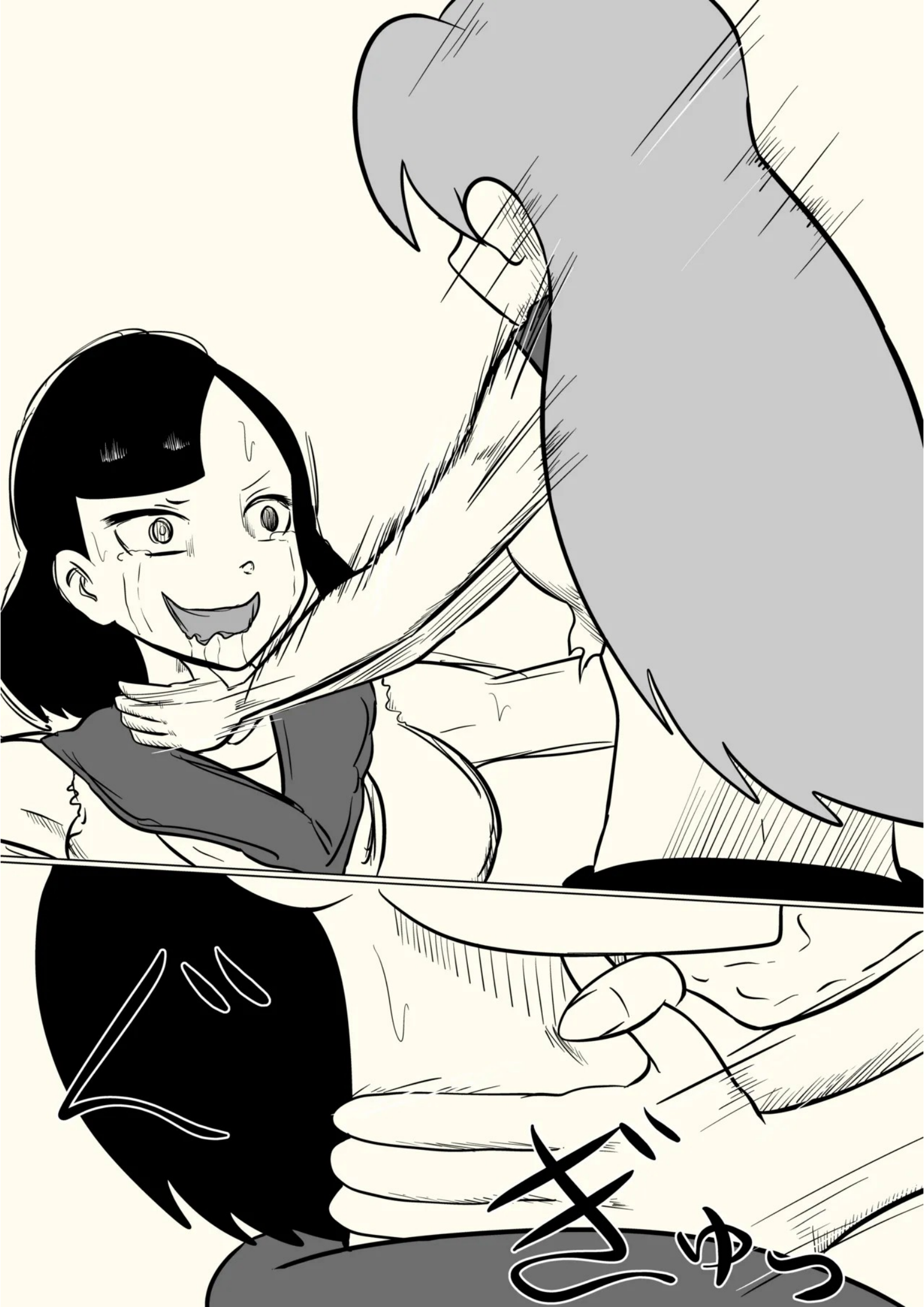
うははははは！
はッ！全員ッ！
全員ッくすぐり殺してやるッ！



コイツは…



コイツは—
—生がしてちやダメだ…！



中堂さんッ!?

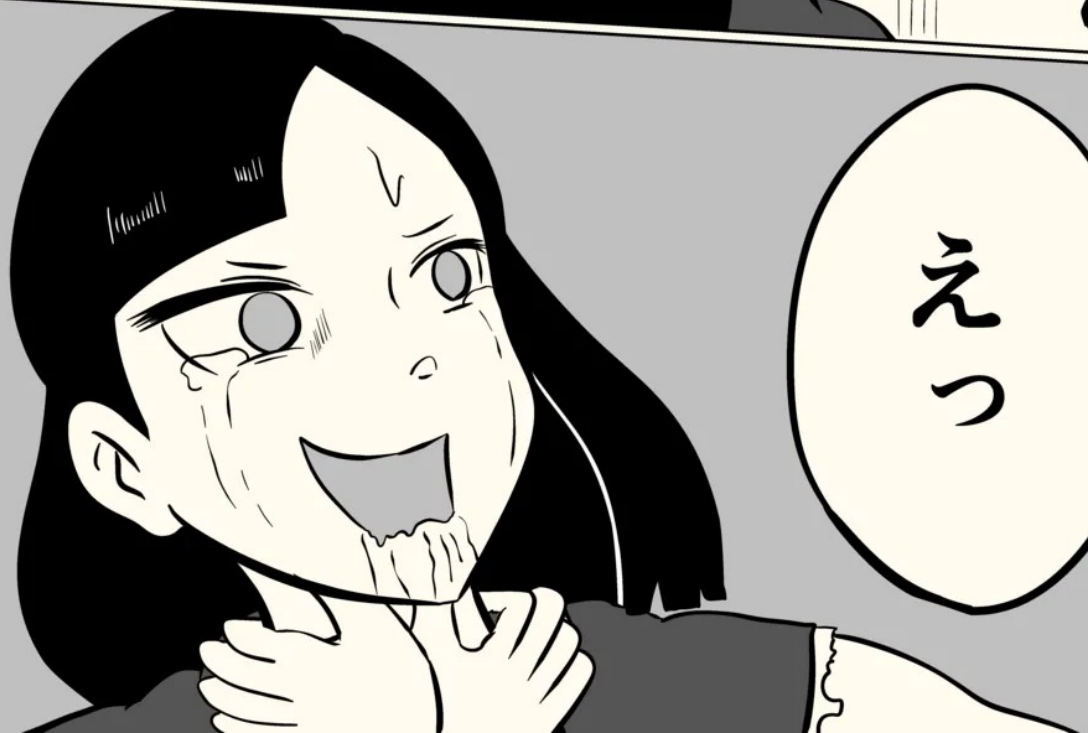
杉澤ッ!委員長!
やっぱりコイツは…

生きていては
いけないッ!

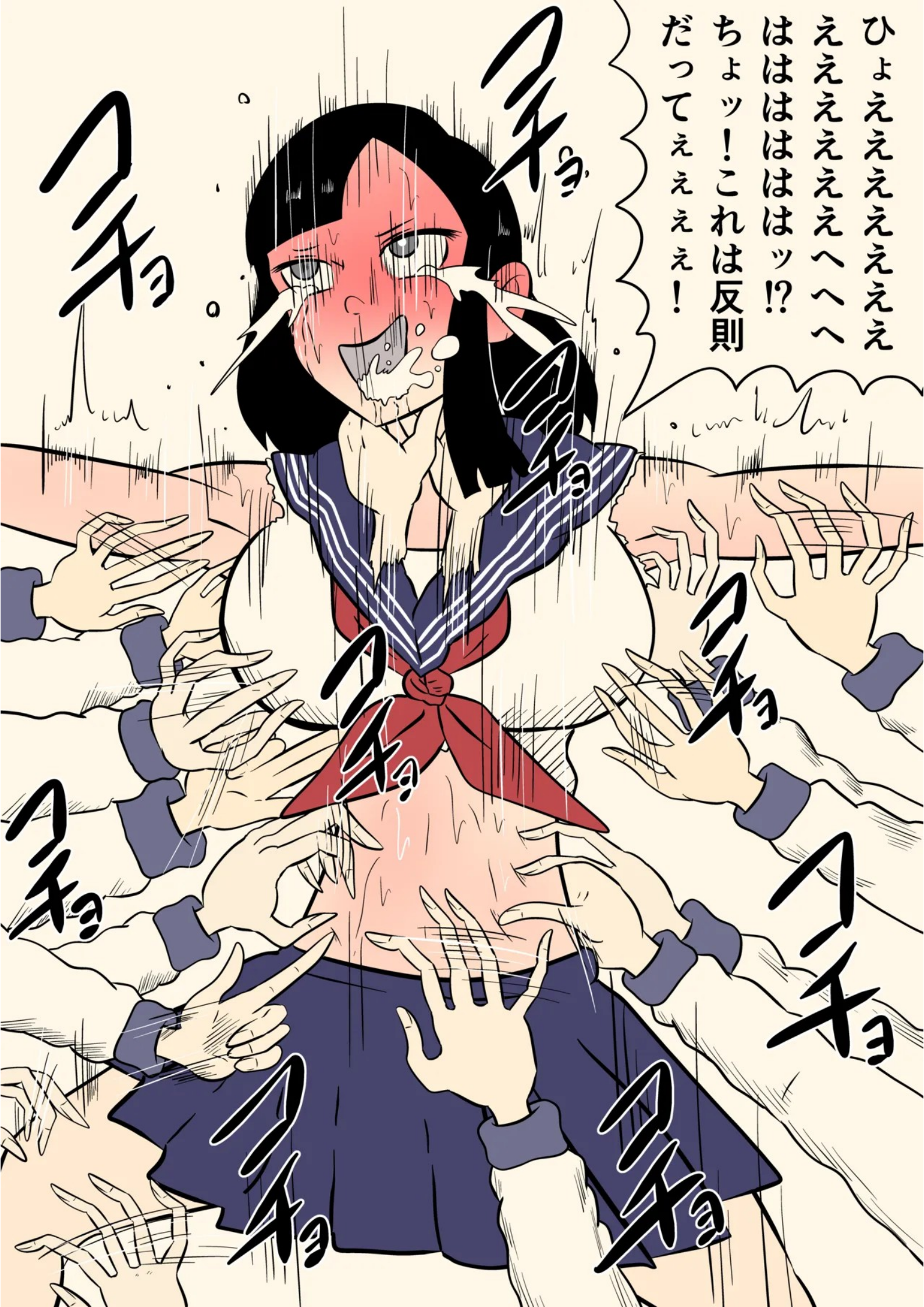
くそ!
ダメだ!

手が震えて
絞めきれない!

だったら…
全員でくすぐり殺そう



ひよええええええええ
えええええええへへへ
はははははははッ!?
ちよッ!これは反則
だつてええええ!



クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

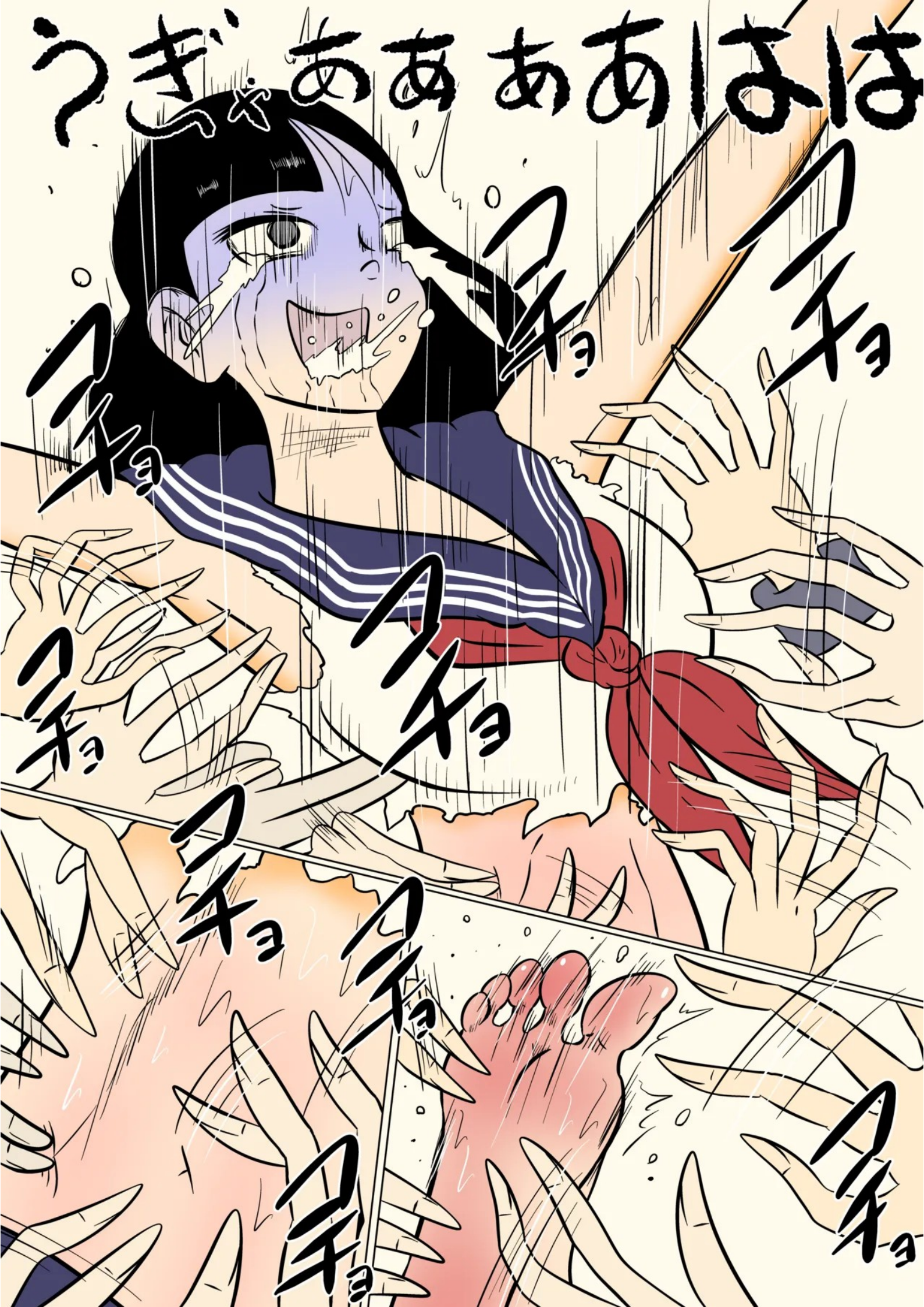
クッ

クッ

クッ

クッ

うぎ ああ ああ はは



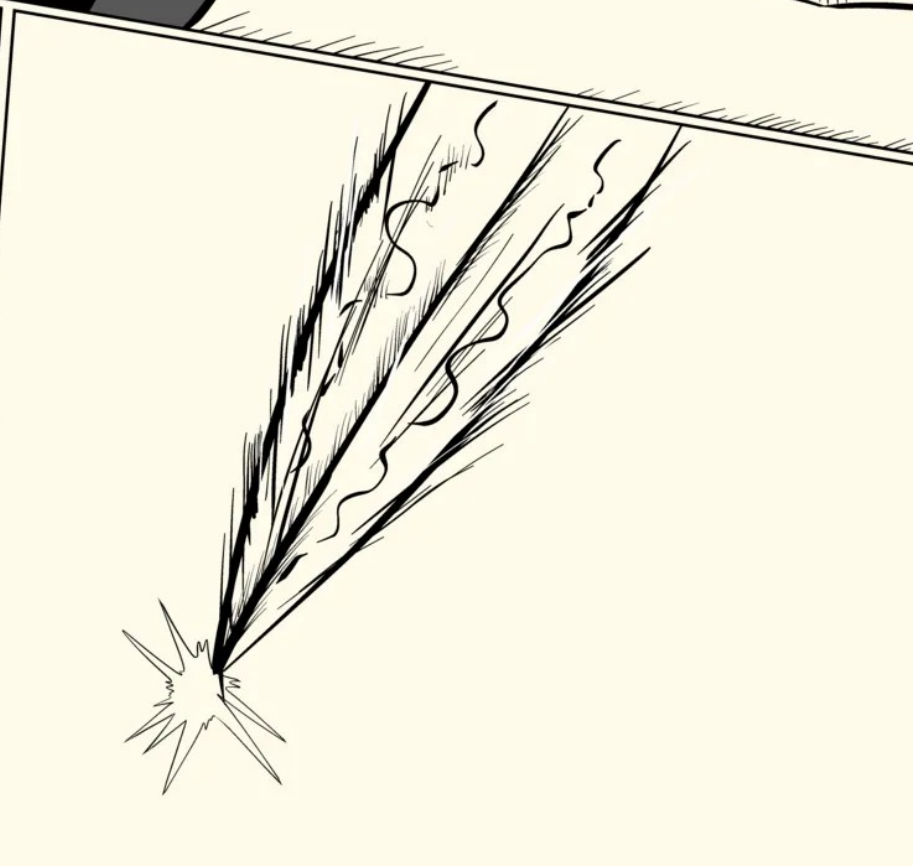
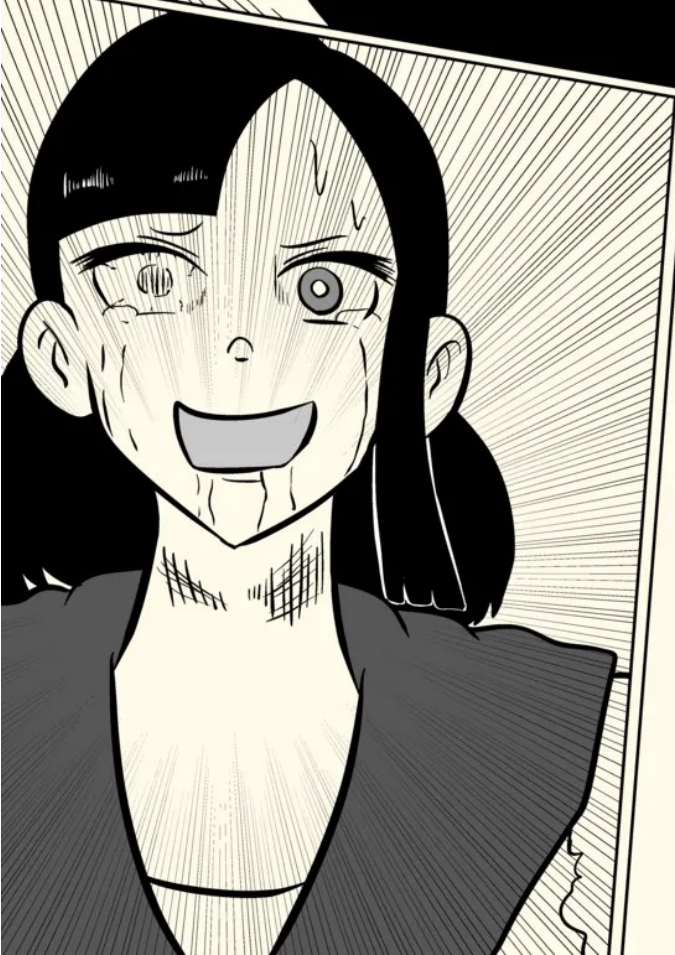
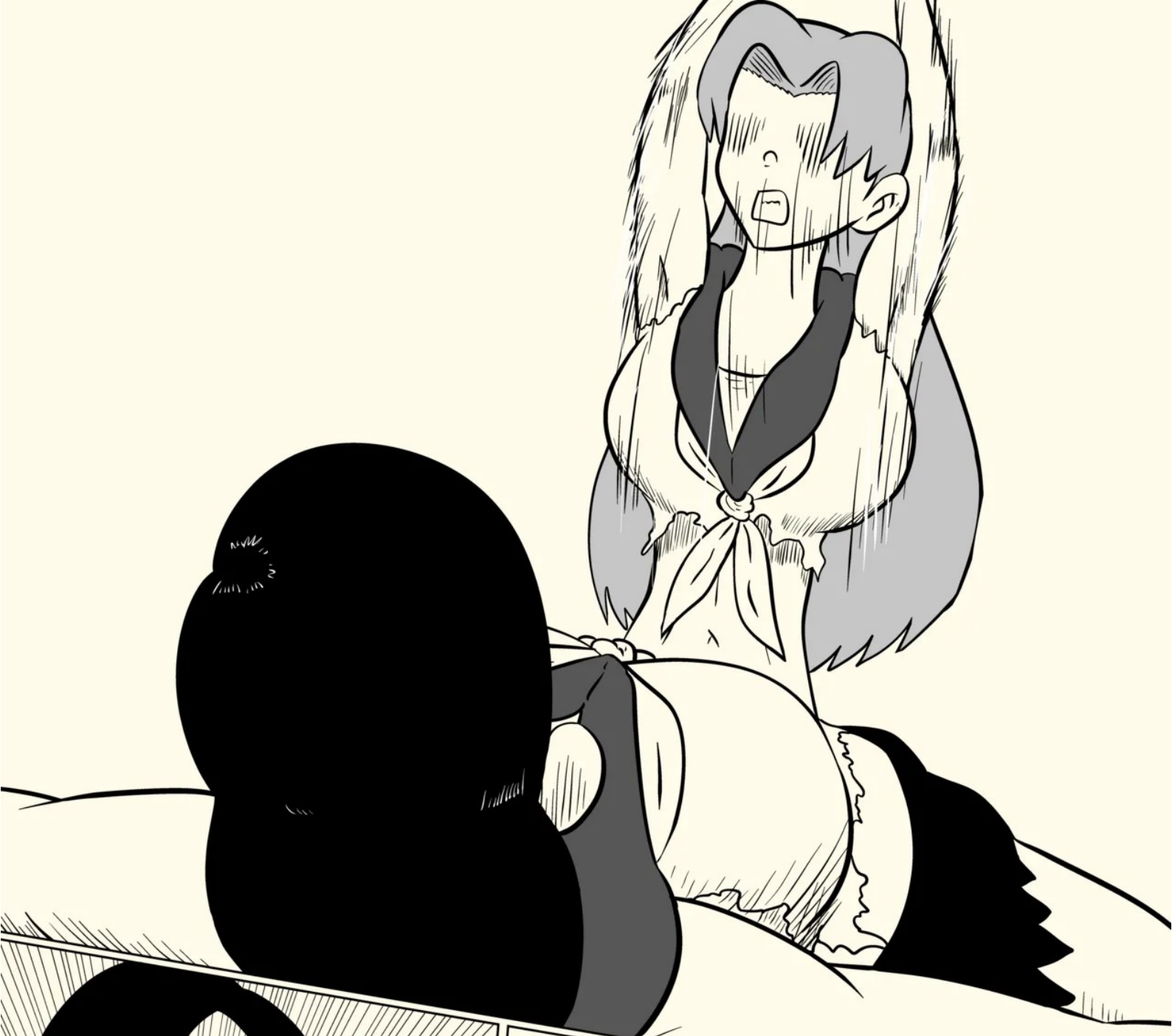


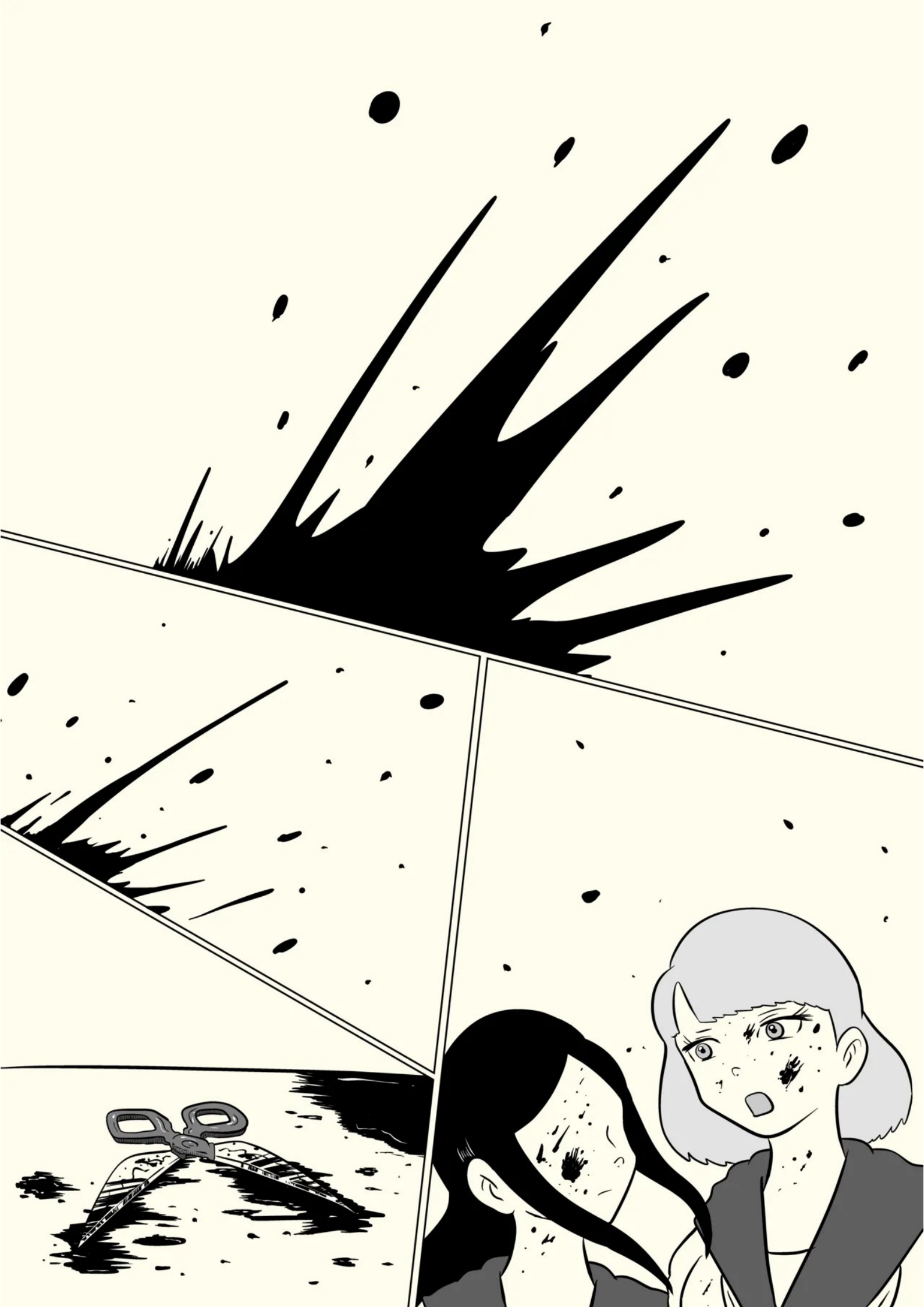
くそッ!
なんて...

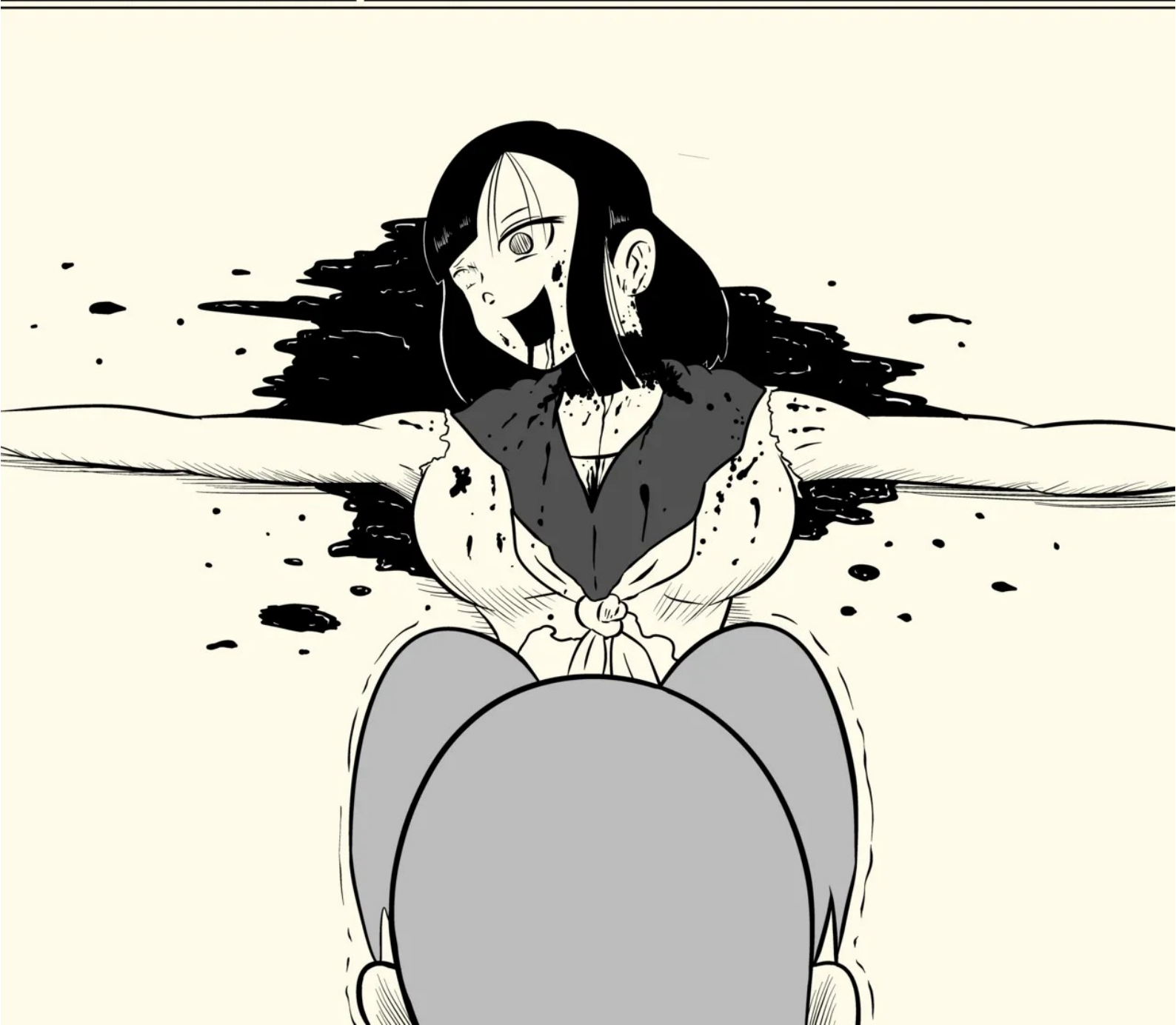
なんで死なないんだ!

コレしか無い...のか?

何かないか...!?









んむううるるるる
るるるー!? だんだんだ

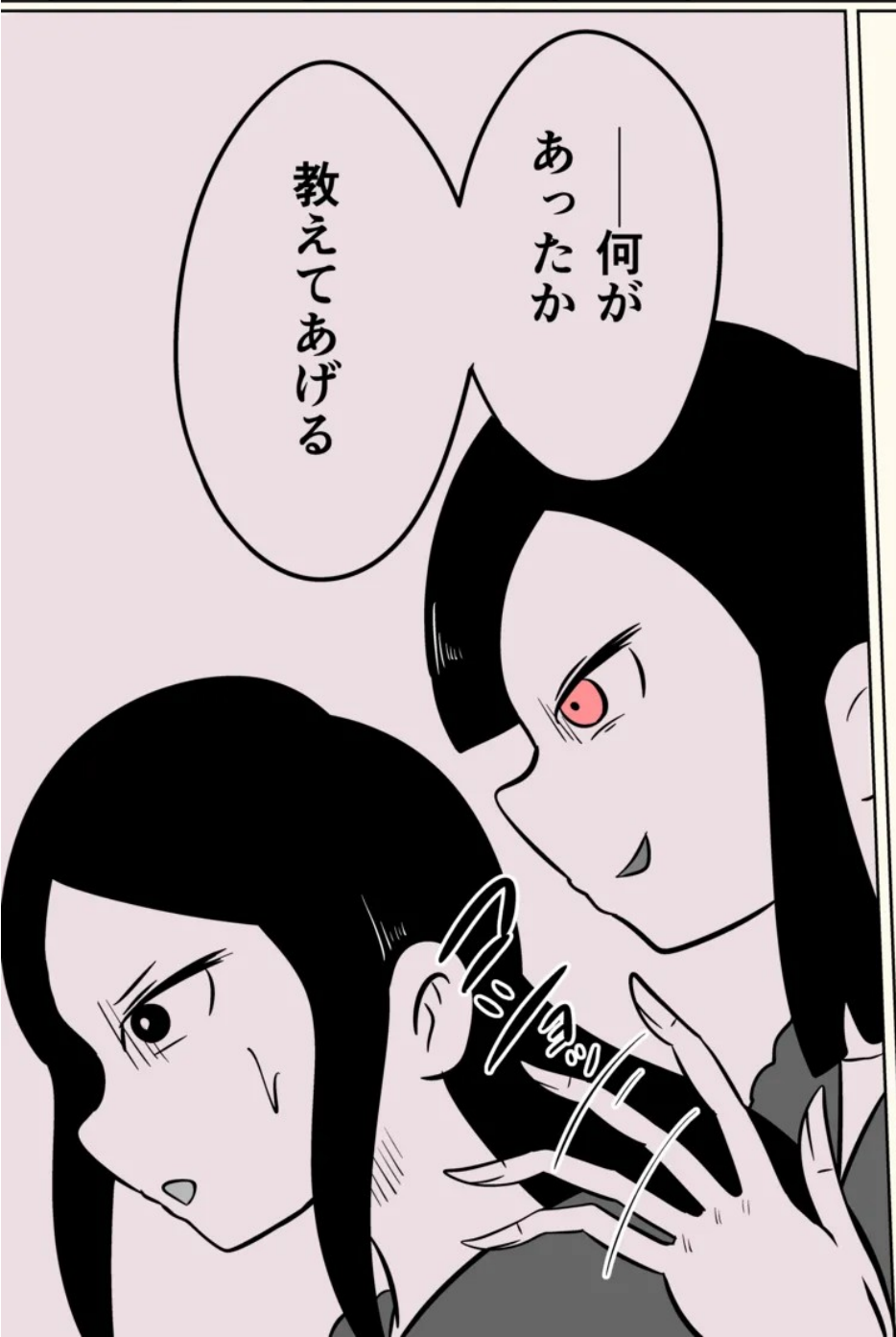
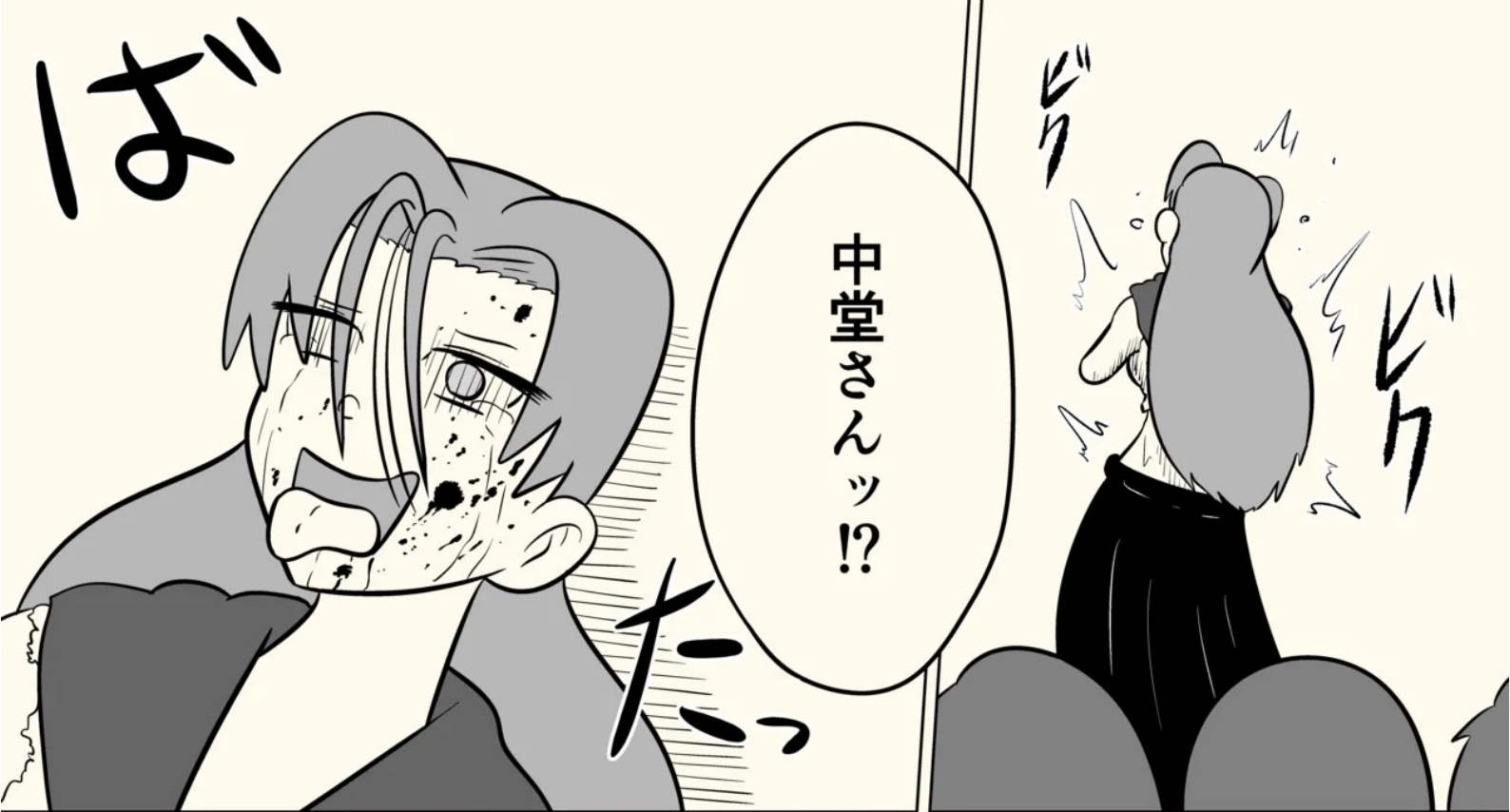


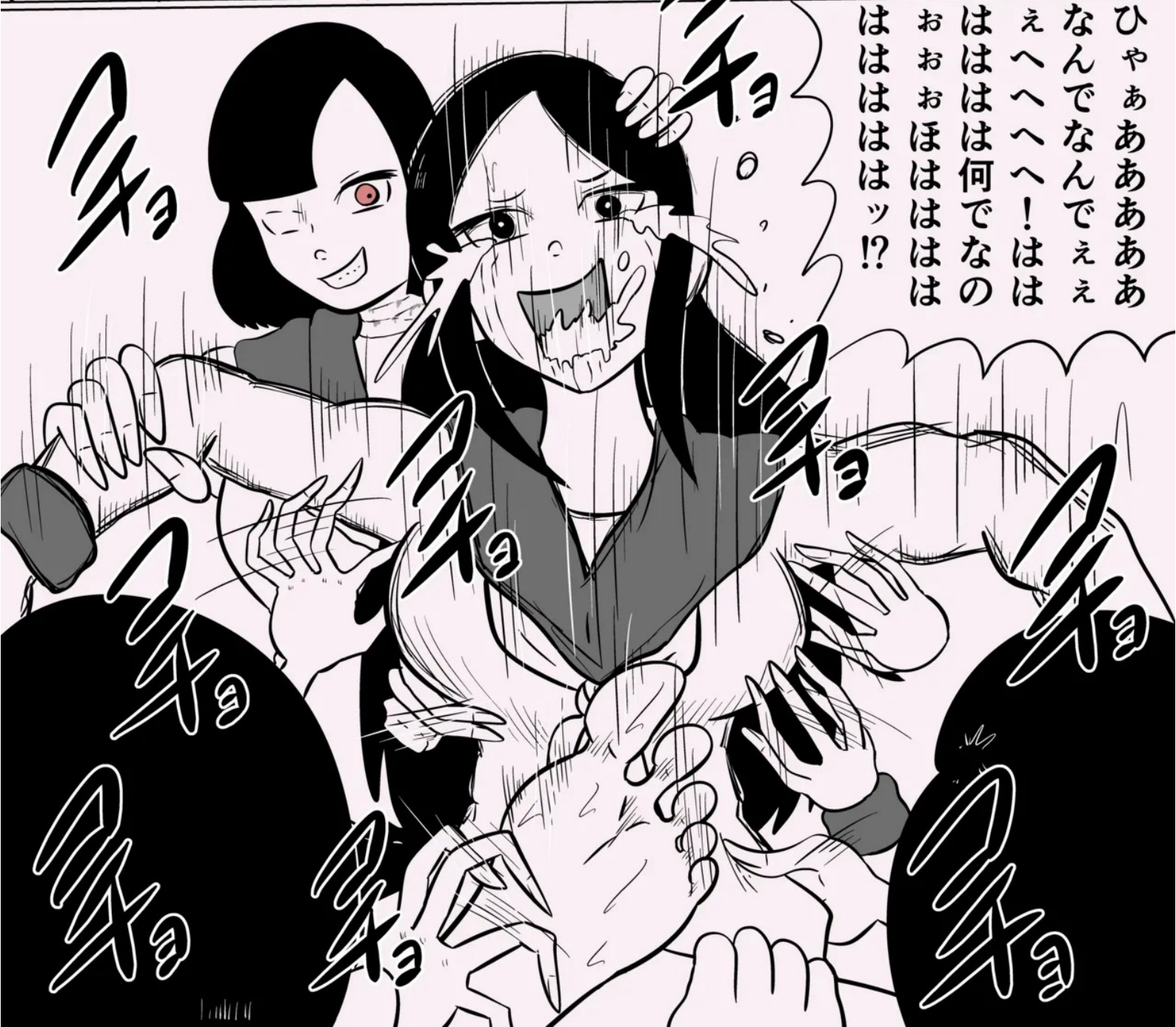
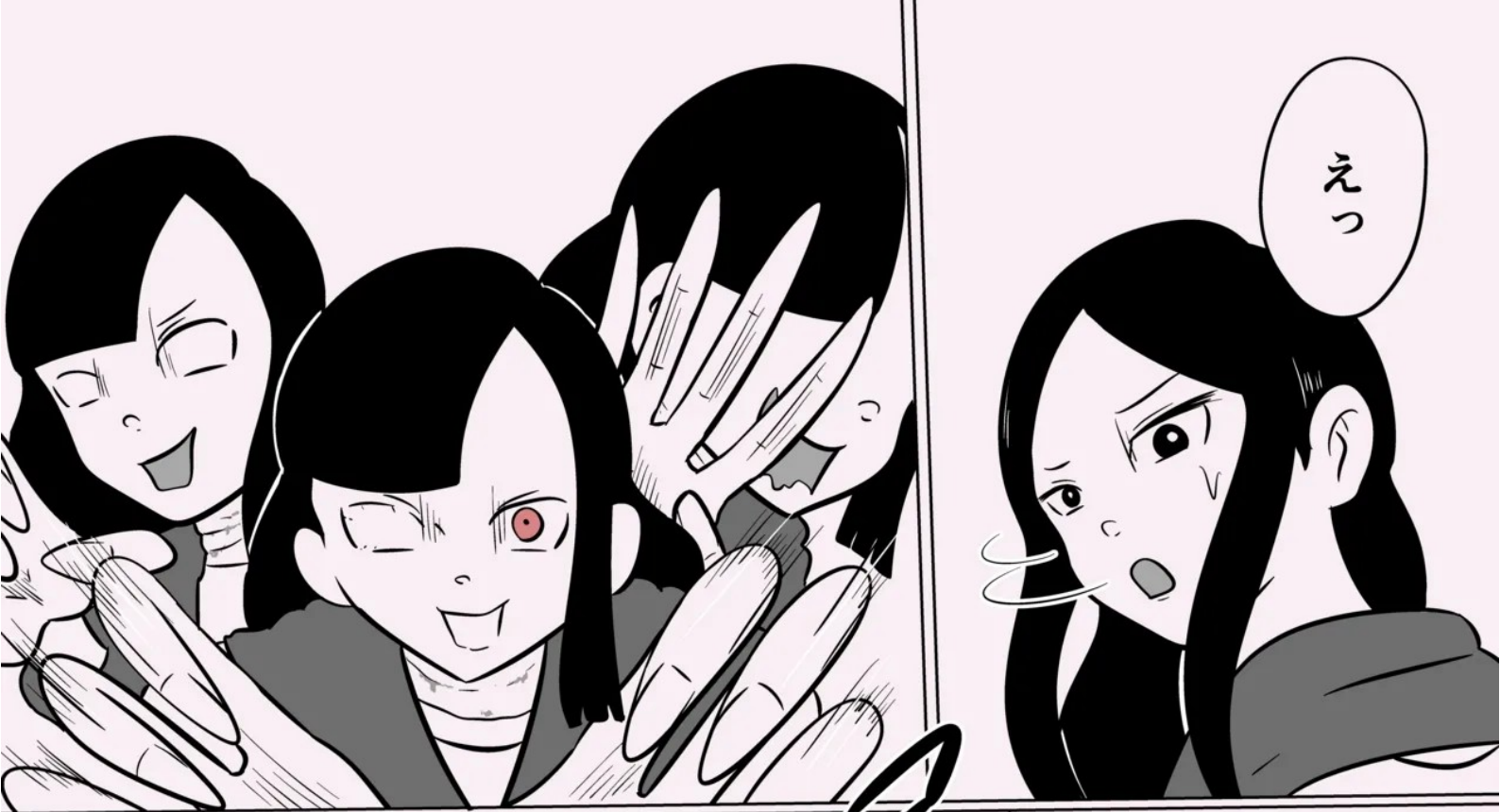
んむッ!?



一緒に
こっちに来ようねえ









犠牲者は

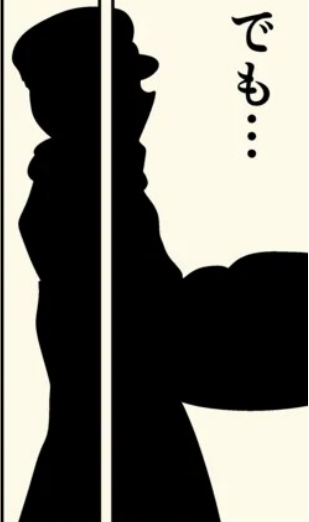
斧橋冷夏で最後には
ならなかった

次は
自分かも知れない



そう思って
私はその場でそれを
待っていた

でも…

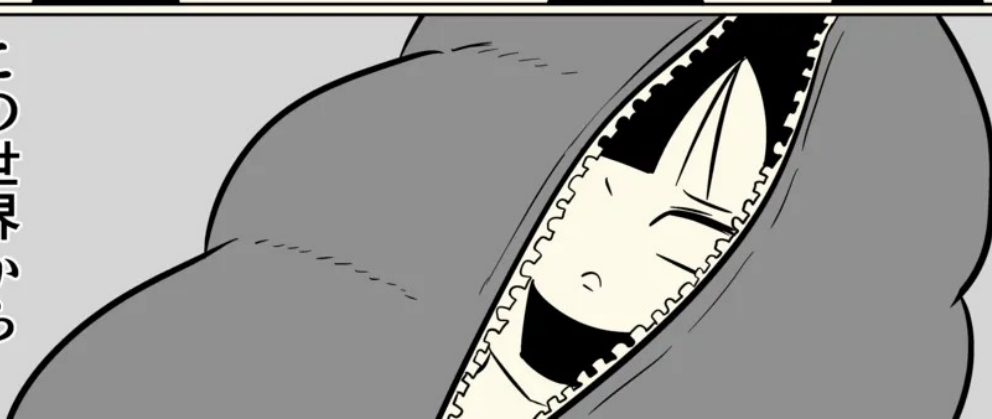


斧橋冷夏は来なかった



これでやっと
終わったんだと思った

ただ…
死んだ斧橋冷夏が



この世界から
いなくなった
気はしなかった

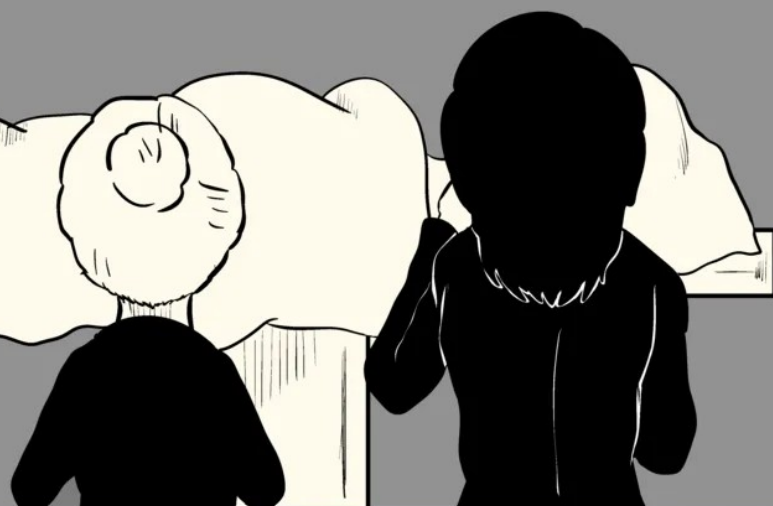
犠牲者たちが――



家に帰ることは
決してないのに――



それなのに――



アイツだけは――



――帰って来る気がする

事件後、私たちのクラスは
より一層、溝が深まった

あのと
警察にいろいろ聞かれたけれど

誰も本当のことを
信じてくれなかった



美波…

美波…！

美波ッ！

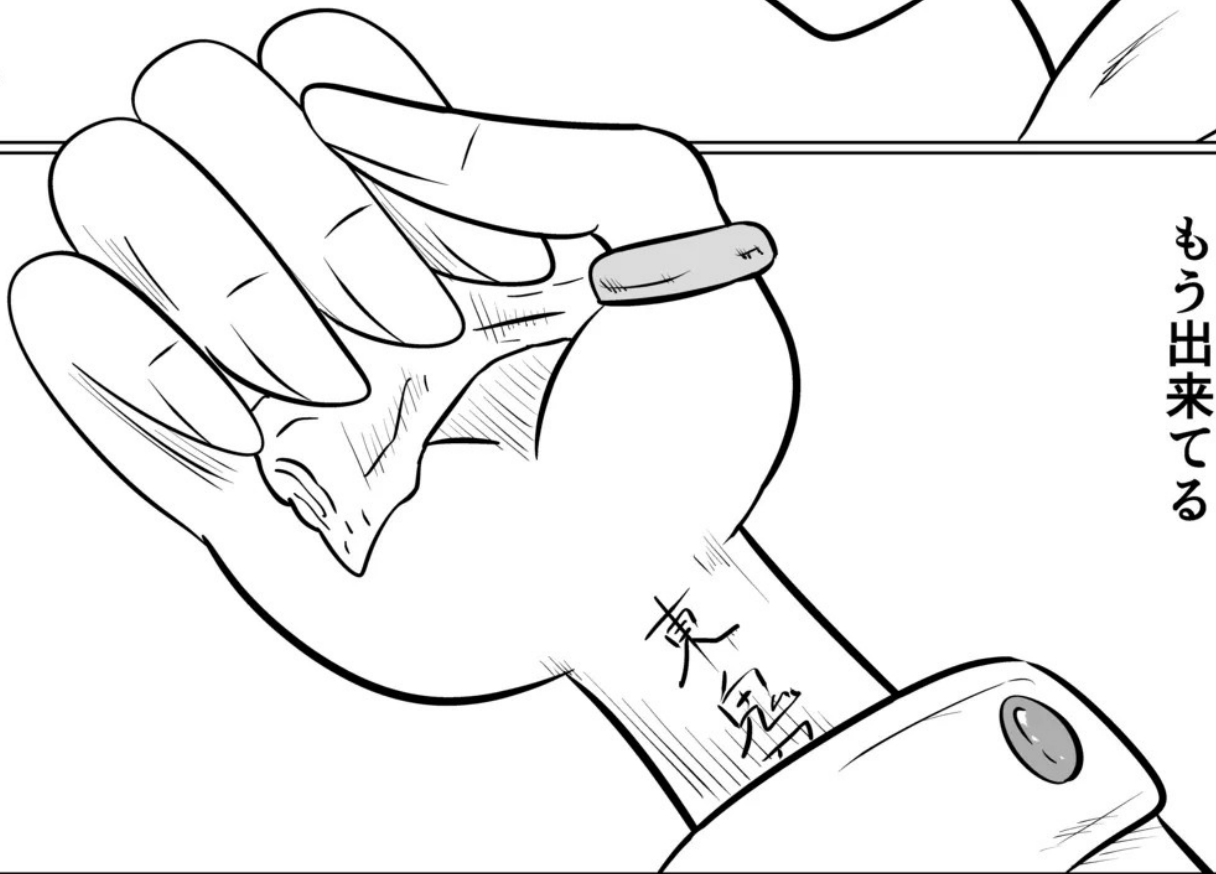
逃げろ
アイツが来る

もうこれ以上は
アイツを抑えられない…！



うん…

分かってるよ…あいか



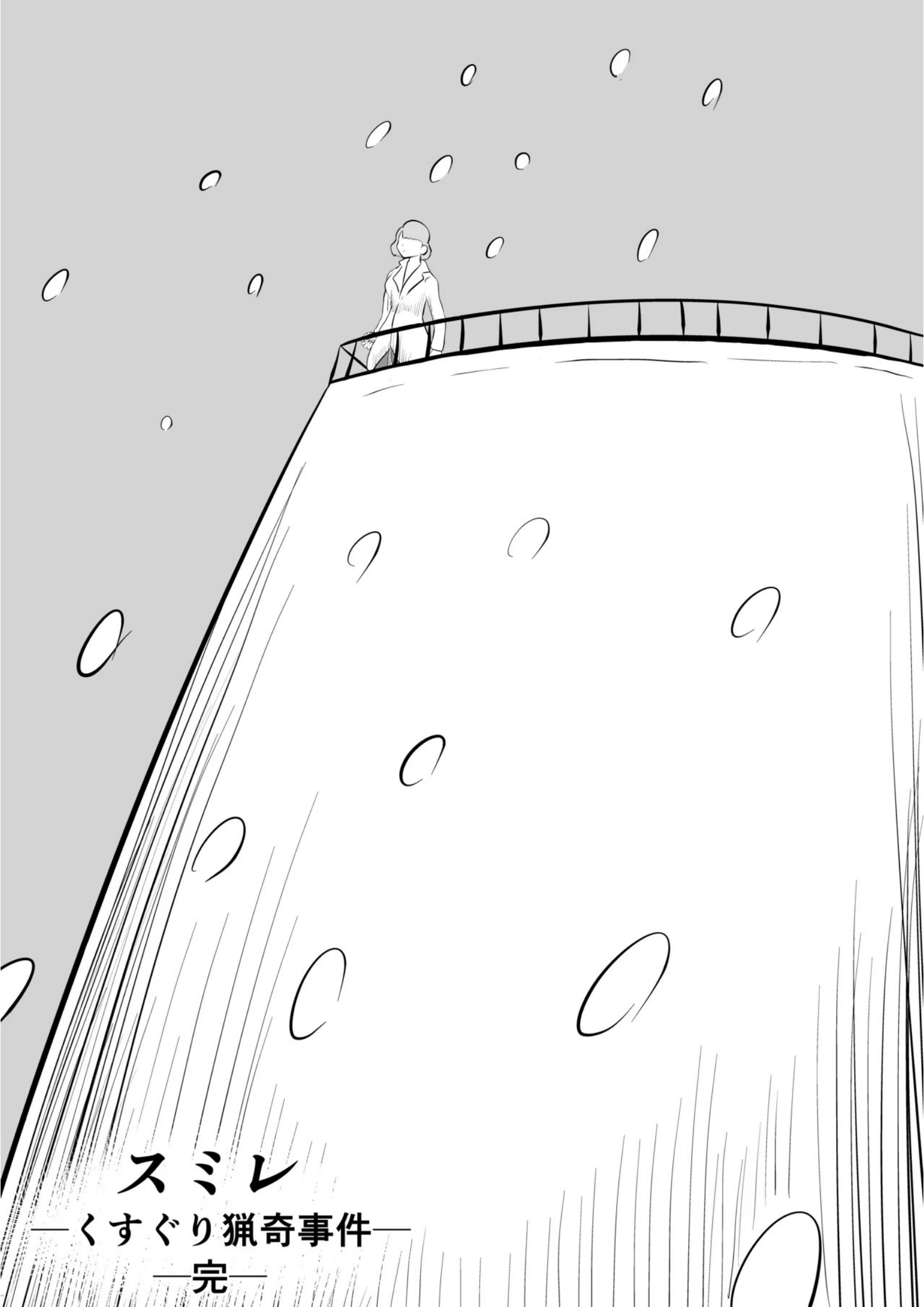
こっちの準備は
もう出来てる

みんなが
私に時間をくれたから

そっちへ行って
みんなと一緒に…

戦う覚悟も出来てる





スミレ

—くすぐり猟奇事件—

—完—